明治四十四年八月一日第三種郵便物認可
大正元年八月十五日發行（每月一回十五日發行）

廓清

第二卷第八號

主張　社會之改良・風紀之廓清・男女之貞潔・家庭之和樂

嗚呼明治大帝

△哀辭……
△國民は必ず一年間喪に服すべし……會説
△根本的花柳病撲滅策……京都帝國大學教授醫學博士　松浦有志太郎
△宗教史上の女性……早稻田大學教授廓清會理事　內ヶ崎作三郎
△廢娼後の群馬縣……廓清會群馬支部委員　松宮彌平
△樓主の悔改談……聖書の研究主筆　內村鑑三
△藝妓問題……大日本禁酒同盟會々長　安藤太郎
△輿論の聲……東京日々新聞　名古屋新愛知

廓清會本部

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

クラブ新聞

禁轉載

クラブはみがき
クラブおしろい
クラブ化粧水
クラブあらひ粉
𠆢煉香油クラブ　美髪用ポマード
クラブ美身クリーム

本店新案

▲野風呂　双蝶子作

姉の雪子は一年振で歸省した。

萬頃の稻田にそよぐ夕風を我物として、笑ましげに瞬くあか星の影を懷かしく見上げながら、濃き綠の蔭で野風呂に浴する心持を何にかたとへやう。

學校の寄宿舍の一年間の生活は、四角な狹い箱の中に詰め込まれたやうに究屈なものであつた。廣い湯殿に水道の水はつかひ放題ではあるけれど、何物にか壓へつけられたやうな氣持がしてならなかつた。何物にか追かけられるやうな氣持がしてならなかつた。

それに較べては野風呂の呑氣さ。自然の齎す清新の氣を心ゆくまで味はうて、汚れも塵も忘れてしまうのであつた。

「あゝ、田舍の樂しみ!」

自然と同化の境に入つて、身も心も恍惚となつた時、

「姉さん、お湯の加減は如何」

と妹の花子が驅けて來た。

雪子は、まだ恍惚として居た。

花子は、つく〲姉の美しい肌を眺め入つて、

「姉さんのお肌は、何うして恁麼に綺麗になんなすつたの。東京には色の白くなる良いお藥があるんですか」

雪子は始めて我に復つた。

「花ちやん、妾の肌がそんなに變つて::では、矢張り」

「どんなお藥なの」

「お藥ぢやないのよ。妾ね、東京へ行つてから、クラブ洗粉ばかり使つて居たもんだから」

「クラブ洗粉!あゝ、姉さんがお土產に下すつたあれなの」

「さうよ」

「クラブ洗粉——東京へ行かなくとも、あれを使つてさへ居れば、姉さんのやうに綺麗になられて」

「何處に居たつて同じ事ですよ。クラブ洗粉さへ使つて居れば、姉さんよりも、もつと、きつと美しい肌になられてよ」

「さう」

と妹は嬉しさうに、にツと笑つて、姉の脊を流し始めた。夕の空は段々闇になつて、雪の樣な雪子の肌のみが白々と。

▲伊香保より

高崎まで汽車、高崎から電車で無事に此處へ着きました。此の前には澁川まで馬車で、澁川から山道を車で上つたのに比べて、文明の利器の有難さを染み染み覺りました。

今更ながら、宿の二階から見わたす赤城山の雄大な景色は忘られぬ印象を留めました。榛名湖の水、大平臺の野百合、榛名神社の奇石、こんな事はくだくだしく申すまでもありません。

溫泉のゆあみ心地も格別です。上野を立つ時に戴いたクラブ白粉は、此の溫泉に入つて愈々きゝめの著るしい事を感じました。それと毎朝クラブ齒磨で齒を磨いた時の心持のよい事!これは皆あなたの賜ものだと厚く感謝します。

▲風か來る　京丸

涼しい風に柳がなびく
なびく柳に風が來る
涼しい風に簾がゆらぐ
ゆらぐ簾に風が來る
涼しい風にクラブが匂ふ
匂ふクラブは風が來る

木製 亞鉛張 冷藏函發賣

定價表

木製ノ部（但附屬品一式付）

番號	寸法	價格
一號	高三尺三寸 巾一尺九寸 横一尺七寸	金參拾圓
二號	高二尺七寸五分 巾一尺六寸五分 横一尺四寸五分	金貳拾四圓
三號	高二尺三寸五分 巾一尺三寸五分 横一尺二寸	金拾九圓

亞鉛張ノ部（但附屬品一式付）

番號	寸法	價格
一號	高二尺三寸 巾一尺四寸 横一尺二寸五分	金八圓
二號	高二尺五寸五分 巾二尺 横一尺三寸五分	金拾貳圓
三號	高二尺七寸 巾二尺 横一尺四寸五分	金拾七圓
四號	高三尺 巾二尺一寸 横一尺五寸	金貳拾圓
五號	高三尺二寸 巾二尺三寸五分 横一尺八寸	金貳拾五圓
六號	高三尺五寸 巾二尺五寸 横一尺九寸	金參拾壹圓
七號	高四尺 巾三尺 横二尺	金參拾八圓

右寸法ノ外料理店洋食店用等御好ミニ應ジテ調進可仕候

本冷藏函ノ特長

極少量（壹貫目乃至貳貫目）ノ氷塊ヲ入レ置ク時ハ函内常ニ冷却セルヲ以テ**ビール、サイダー**ハ勿論魚肉、野菜、果物其他腐敗シ易キ飲食物モ函内ニ保存スル時ハ數日ノ後ト雖モ美味ヲ失フヿナク實ニ**衞生的、經濟的、實用的**家庭ノ必要品ナリ

大阪市北區下福島三丁目一七三

帝國冷藏株式會社 **大阪冷藏庫**

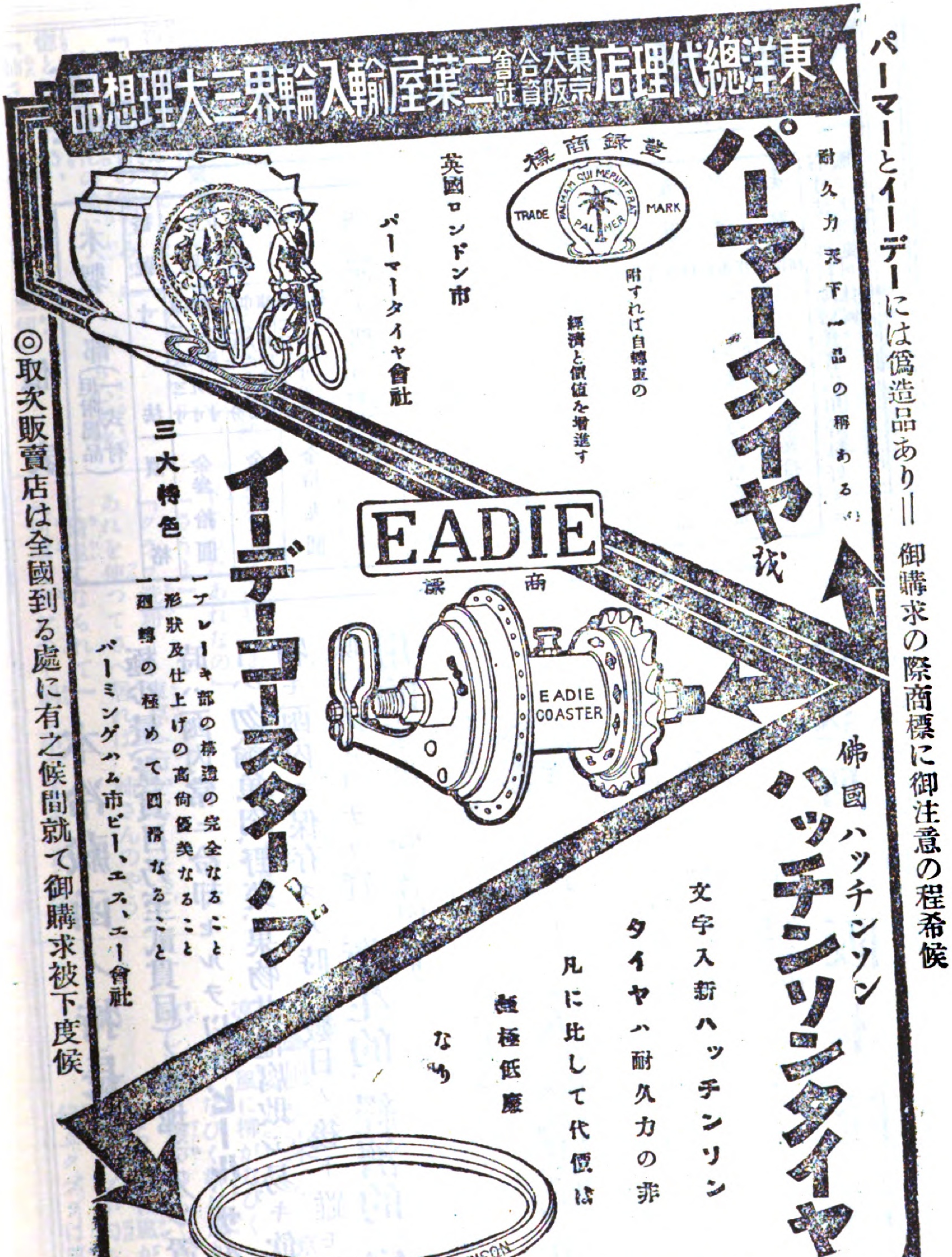
電話西三〇九八番

廓清會員若くは會員の御紹介ある方に限り特に御便宜の御計ひ致し候

東京神田美土代町三ノ三
鐵道青年會内

申込所　阪本隆滿

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY


パーマーとイーデーには僞造品あり‖御購求の際商標に御注意の程希候
東洋總代理店
東京大阪合資會社
二葉屋
輸入輪界三大理想品
パーマータイヤ
耐久力天下一品の稱ある
附すれば自轉車の經濟と價値を增進す
登録商標
TRADE MARK
PALMAM QUI MERUIT FERAT
PALMER
英國ロンドン市
パーマータイヤ會社
EADIE
商標
EADIE COASTER
イーデーコースターハブ
三大特色
一ブレーキ部の構造の完全なること
一形狀及仕上げの高尚優美なること
一廻轉の極めて圓滑なること
バーミングハム市ビー、エス、エー會社
佛國ハッチンソン
ハッチンソンタイヤ
文字入新ハッチンソンタイヤハ耐久力の非凡に比して代價は極低廉なり
PNEU-HUTCHINSON-PNEU-HUTCHINSON
◎取次販賣店は全國到る處に有之候間就て御購求被下度候

先帝陛下那須野ヶ原に大演習を御統監遊ばさる（明治四十二年）

先帝陛下御不例に付三皇孫殿下御參內あらせらる

伏見宮殿下泣いて宮闕より罷り給ふ

國民二重橋畔に先帝陛下の御惱御平癒を熱禱し奉る

Digitized by Google

Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

嗚呼一天萬乘の　聖天子明治天皇陛下は、明治四十五年七月三十日午前零時四十三分、六千萬赤子が熱禱の搖籃に召されつゝ、遂に遠く去りて祖宗の列に入り給ふ。噫哀しい哉、噫悼ましい哉。顧へば去んぬる廿日初めて御不豫の報出づるや、國民は恐懼措く所を知らず血を絞り骨を削りて御平癒の一日も速ならんことを祈りしに遂に不諱の報を聞くに至る、悲歎慟哭殆んど言を出す所以を知らず。

惟みるに我が　明治天皇陛下は鳳算十七にして即位まし〳〵てより、維新の大業を成就し、王政を古に復し、而かも憲法を制定して、臣民に參政の權を與へ、信仰の自由を宣明し給ひ、殊に兩度の大戰に因りて皇威遠く海外に及び、東洋の一島帝國を以て世界强國の一として指を屈するに至らしめ給へり。其豐功偉績寔に前古未だ曾て有らざる所なり。

殊に　陛下平素最慈悲仁愛の大御心に富せられ、深く一般臣民を撫愛し玉ふこと慈母の赤子に於けるが如し、吾等臣民何の幸か、斯かる聖明の天子の下に臣民たるの幸福と光榮に浴するを得て、感謝極まりなかりしに今突如として神崩れさせ給ふ恐咽何ぞ堪えんや。

況んや本會の目的の一たる奴隷(娼妓)の解放は陛下既に之を明治五年の以前に於て宣明し給ひし所、只それ國民多年の弊習たると、當局者の優柔不斷とによりて今尙依然として舊態を存す。而して之れ決して至仁至德なる　陛下の大御心にあらざるを信じて、平素力を　陛下に得てありつるに遂に今日の憂愁に會す。悲痛哀傷極まる所を知らず。誠惶誠恐茲に謹んで哀悼し奉る。

大正元年八月十五日　謹記

國民は必ず一年間喪に服すべし

二

(一) 先帝崩御と美しき國民精神の顯現

大行天皇の崩御は、我々國民に取つて實に絶大なる不幸であつた。此の允文允武至仁至德の聖天子を失つた事は眞に悲痛慟哭の極みである。併し乍ら此絶大なる不幸、此悲痛慟哭の極みの中にも、我々は國家のため實に欣喜に堪えない多くの事實を見出すことが出來た。

試みに崩御前後に於て顯はれたる國民の至誠を見よ、思ふに斯程迄に國民全體が眞面目になり、斯程迄に陛下を愛慕し奉るの精神が熾んになつた事は、恐らく古來稀なる事であらう、或は全く未だ曾て有らざる所かも知れぬ。實に陛下御重態の報一たび九重の雲間を洩れてより、宮城前は人の山を築き塵埃渦卷き上りて頭より足まで糠の如く浴るをも意とせず、熱き涙を垂れ、熱き汗を流しつゝ我を忘れて祈願を凝らし、眞に至誠の外何ものもなき國民の赤誠は、之を目撃したるものをして何人も謂ひ知れぬ敬虔の念に打たれざるを得ざらしめた。勿論今日迄と雖も皇室と臣民との關係は他國民の殆んど解する事の出來ない程、密接な間柄ではあるが、併し乍らこれ迄は何となく皇室に對し、陛下に對し奉り、畏敬するといふ觀念が主であつて、親しみ愛するといふ此親子的の情緒に多少缺けて居たかのやうな感じがする。それが今度は決して陛下の御威光に畏れ戰くといふのではなくて、全く自分の親のやうに、いやそれよりはより深い、より嚴かな愛情を以て陛下を慕ひ奉るといふ現象が最も著しく表はれたのである。これは誠に喜ばしい事で、先帝陛下の永久に朽つる事なき偉大なる御事績に加へて、其至仁至德の御聖德に更に錦上花を添ゆるものである。先帝陛下の盛んなる御稜威と其臣民の忠誠とは、實に古今東西に比ひなき所であると信じて疑はぬ。

(二) 國民の服喪と遊廓の存亡

唯我等が密に萬一を虞れて、國民に警告を與へたきは先帝陛下に對し奉りたる至誠の衷情それが、唯一時的の發作でなからんことである。勿論之が一時の出來心であらざりし事は申すまでもない事で、斯くの如き注意を與ふるこそ却つて國民の怒りを招きはすまいかと思ふ位であつて、茲に吾人が提供せる問題の如きは、無論一人の異論者もなく全國民が衷心より贊同する處であるに違ひないと信ずる。曰く

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

『國民は一年間喪に服すべし』

斯く云へば其は當然知れ切つた事ではないかといふかも知れぬ。成程之は皇室服喪令によりて定められた事ではあるけれども、吾人のいふ所のものは只形式的の服喪ではなくて精神的の服喪である。換言すれば崩御前の精神態度を以て此一年間を貫き謹愼の誠意を先帝の尊靈に表し奉れといふのである。今や東京市民の如きは先帝陛下追慕の情抑へ難く、明治神宮の建設に非常なる熱心を注いでゐる。又、由來日本國民は天皇陛下の爲とし曰へば生命を鴻毛よりも輕んじて惜しまないのである。斯かる國民に對して僅に一ヶ年間誠心誠意大喪に服すべしと要求するは、寧ろ其短きを憾まるゝ位であるに違ひない。日本國民よ果して然りや否や。

思ふに六千萬の日本國民は今や大なる試驗に際會して居るといふことが出來る。崩御前後の二重橋、全國各地に於ける祈願熱禱と其謹愼なる態度が、僞なき國民至誠の發露であるや否やは、向ふ一ヶ年に於ける實際の行動如何によつて知る事が出來る。而して之を知るのはかりは本會が豫て主張しつゝある娼婦問題である。公娼制度が此一年間によりて自然消滅し、所謂狹斜の巷が此一年間に全滅するや否やによつてはからるゝのである。

(三) 大正劈頭の最も嚴肅なる試驗也

見よ先帝崩御前の狀態を、國民の精神が最も嚴肅になり陛下に對する忠誠を發揮し來りし其光景は、實に人世の極美と謂つても敢て過言ではない。而して之れ程國民としての大なる誇りはないのであるが、玆に著しき現象は一方に於て國民が益々眞面目になり、益々忠誠を發はして來ると、其れと全く反比例に、さしも熱鬧を極めたる巷も忽ち閑として聲なき墓場のやうになつたのは實に遊廓であつた。國民が陛下を尊び奉る至情に充たされた時は、藝娼妓は有つて無きが如き有樣であつた。其故に國民全體が此時の精神狀態を持續して、眞に一ヶ年間謹愼して喪に服するならば遊廓は自然消滅の外はない。一年間一人も遊廓に足を踏み込む不忠、不謹愼なる國民がなかつたら、どうして遊廓が其營業を持續して行く事が出來やうか。即ち遊廓の存亡、公娼制度の興廢は國民全體の服喪の如何によつて決せらるゝのである。之れ實に新元號劈頭の最も嚴肅なる試驗である。

或は曰はん國民は忠誠なれどもたゞ多數の中には不謹愼なもの、不心得なものもあつて遊廓などに行く者もあるであらうと。然らば遊廓はそんな不謹愼な不心得な、不忠なる惡人を優待する爲に設けられたるものであるか。吾人は敢て當局者に敎ふ。惡人は罰すべきものであつて優遇すべきものではない。優遇すべきは善人である。善良にして忠誠なる臣民である。而して若しも政府が善良にして忠誠なる臣民を優遇せんと欲せば、須らく彼等のために其目障りである彼の遊廓なるものを撤廢せねばならぬ。(釜富生)

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

論議

根本的花柳病撲滅策

京都帝國大學醫科大學教授
皮膚黴毒科長 醫學博士 松浦有志太郎

左は去月二十三日大阪に於ける廓清會大演說會に出演の約なりし博士が、生憎御病氣の爲め出席を見合せられ、當日講演せらるべき筈の大要をものして、大阪支部の林歌子女史宛寄せられたる書翰の全文である。(記者)

△

拜啓、先日は態々御來光被下候に失禮仕候。扨說其節御約束の如く、本日廓清會にて愚說述べ候事を期し居候處、一昨日來少しく發熱頭痛全身異和を自覺仕候處、本日に至るも輕快せず食思なく、甚だ疲勞を覺え申候間、乍遺憾本日は缺席仕度、先刻電報を以て御斷り申候次第に付、何卒惡しからず御諒恕願候。

△

小生が本日の會場に於て申述べんと存したるは、極めて簡單にて只々左の一語にて盡き申候。即ち

彼の吾人々生に於て、最も恐るべき惡むべき花柳病の撲滅策としては、男女間の道德心を高上せしむるを以て、唯一根本の策となす事を申述べたき積りに候。

花柳病の豫防撲滅の計畫上、近來漸く其根本的の策は、男女間の道德品行を向上せしむるにある。即ち大に敎育殊に倫理的の敎育に待たざる可からざる事を唱ふるの傾向を、學者の間に見るは大に快心の事に候。

固よりかく申しても、醫學者が其負擔を捨てゝ、之を敎育家に渡し、其責任を発るゝと申す次第にあらず。併し醫學的に即ち衞生學的に從來施設せられ、又は實行せられ居る花柳病の豫防策即ち公衆衞生的には、檢梅驅梅の制度、賣笑婦花柳病者の强制治療、又は一般花柳病患者の施療制度、又個人衞生的には機械的防具(ゴム囊)又は藥品的の豫防劑と稱々數々工夫されありと雖、其等の制度及び方法が假令全然無効にあらずとするも、花柳病蔓延の程度を減削するに足らざる事は、獨佛等の先進國に於て、其の花柳病の多き事反つて我邦に勝るも劣る事なく、文明は花柳病の撒布者なりてふ語の今猶ほ其全部意味に於て成立するを見て知るべく候。

△

從來醫學者は花柳病の豫防撲滅に關し、唯々醫學衞生學の立場よりベストを盡して論じ候。而して其功果の擧らざる事上の如くに候。然れども一般の世人は花柳病の豫防等に關しては、全く醫學者衞生學者に一任し居りて、他の專門家の容喙す可きものにあらずと信ずるが如く候。

然れども例へば此處に一男子あり、非配偶的性交に依りて花柳病を得、而して間もなく結婚して之を新婦に感染せしめ次で遺傳的作用に依りて之を其の愛兒に傳ふ。此れ尋常最も屢々見る處、時としては家庭の悲劇甚だ慘憺なるものあり。之れを豈に醫學上の問題としてのみ、冷靜に論ずべきものならんや。余は信ず、人間の事は又人間の問題として論ずべきものなるを。

即ち世人は、花柳病の問題を餘りに醫學者にのみ任せ過ぎたり。向後は各人自ら其屬する責任を守らん事を希望す。只々醫學者は其れに對して狹義に於ける、醫學的衞生的の顧問たるべきのみ。

然れども之を廣義に解せんか、醫は即ち仁の術にして、衞生と淸潔と道德と其義一なり。故に非倫的即ち不潔の性交は品行を亂し、精神と體力を弱め、又惡疾を傳ふるの原因となる事を知らば、醫學者も敎育者も、宗敎家も、亦一般の國民も、衞生即ち道德の旨を體して、共に大に花柳病撲滅の事に從はん事を希望仕候。

△

花柳病とはどんなものか、其の人間に及ぼす禍害如何、蔓延程度、傳染の原因等に付きても、ざつと話したく存居候も此は拙述『花柳病講話』(京都帝國大學以文會編纂)に詳述候間省き申候　草々不一頓首

宗敎史上の女性

廓淸會理事
早稻田大學敎授　內ヶ崎作三郎

(一) 宗敎史と女性

公娼制度若くば私娼制度なるものが、現在の日本のみならず世界各國に存在してゐるといふ事は抑何が故であらうか、いふ迄もなく婦人の勢力が衰へたからである。若し今日の婦人にして巴御前とかアマゾンの如き女傑のみであつたとしたならば決して現在の如き弊害を見ないに相違ない。然らば婦人の勢力は如何にして失墜せられたか、其原因を探究して見

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

ると、人種が互に戦爭を開始するやうになつてから、婦人の勢力は其以前に比し著しく減退したやうである。即ち婦人は體力の競爭上男子に壓迫されて來たのである。

元來婦人は創造のシンボルドである。婦人は子を生む事が出來るが男子は生む事が出來ない。大古蒙昧の時代にあつては此點に於て婦人は婦人の特性に相當の尊敬が拂はれた。試みに野蠻人の宗敎を觀るに其多くは女神である。神は創造の神である。造り出す所の神であるから、そこで神は大抵女性になつて居つた。日本に於ても天御中主神は中性であつたが最も日本人に尊敬せられてゐる天照皇大神は確に女性であつた。之は獨り日本に止まらず宗敎史をたどつて、埃及の昔に遡つて見ても、オシクス、若くばラーの如き男と女と別れて居つた。而して女の神は非常に尊敬されたものである。希臘にはジウノーといふ神があつて、中々に權力を逞うしてゐた事は希臘神話に於ても有名なものである。又ルイナス神といつて是れは美のシンボルドである。希臘人は特に此美といふものを尊んだ國民で、文明史上にも大なる貢獻をなしてゐる。此二つの神は希臘の文明史を研究する上に於て等閑にする事の出來ないものである。次にバビロンの方に往つても女の神は非常に勢力があつた。地球の神はやはり女性であるとしてゐた。我々が地上に種子を蒔くと、それ〴〵木なり草なりが生える。即ち地球の本體は女性であるとした。其他波斯に行くも、印度に行くも女の神は中々勢力があつた。又北歐羅巴の方に行つてもやはり種々の女神があつて、就中ベーヤーといふ女の神は金曜日といふ事に關係を有つてゐる。金曜日には女の神を崇拜するといふ風習がある。今日では歐米人は金曜日といふと無意識に婦人を崇拜するのである。

(二) 女子は男子の進化したるもの也

基督敎の方面を見ると、殊に新約全書時代基督の時代には婦人の勢力は大したものであつた。併し猶太時代には左うでもなかつた。何故ならば舊約全書の創世紀二章を見ると、エホバ神アダム(男)を深く睡らしめて、其肋骨の一を取りイブ(女)を作つたといふ事がある。即ち男一人では寂しからうといふので其男の肋骨一本から女を作つたのだといふ位に、女を侮辱してゐた。併し乍ら何ぞ圖らん此話の中に反對の一大眞理が潜んでゐたのである。神が男と女を造つた時に先づ女を作つてから男を作つたのではない、男を作つた後に女を造つたのである。そこに千載不滅の眞理がある。我々の考では男が更に進化したものは女である。進化の課程から見て後から出來た女の方が念が入り進化してゐる筈である。此點に於て創世紀第二章の眞理は動すべからざるものである。

男子に髭あり、腕力あるといふ事は男子の誇であるが、文運の發達に從ひ髭などはなくなつて女のやうになる。此點から見ても女は男が一段進歩したものであると云へやう。進歩したる生物科學は婦人の位地は男子に優つてゐる事を明に證明してゐる。女は男よりも偉いのである、其證據には世界の偉人も豪傑も皆女が生んだのである。婦人は創造の神である

之より明なる眞理はない。

そこで基督教が歐羅巴に發達するに及んで伊太利に女性崇拜マリア崇拜が行はれるやうになつた。佛教に於ては觀音崇拜がある。觀音といつても議論があるが、先づ大體に於て女性に近い神である。

佛蘭西の大哲學者カントは、基督教のみならずあらゆる宗教に反對して、神などゝいふものは見る事の出來ないものである、又あるべき筈のものでない。それよりも生きてる人間より確なものはないといふので過去の偉人を崇拜した。所が年四十五にして女を想ふやうになつた。即ち四十五になる哲學者は神を拜まないマリアを拜まないが、女を拜みたくなつた。分別盛りの哲學者は遂に其婦人と結婚した。處が不幸にして夫人は間もなく夭折した。カントは最愛の妻に對する戀々の情抑ふるに由なく、果ては死んだ自分の妻を拜むやうになつた。即ち自分の妻を拜む事によつて、マリア崇拜か復活し基督崇拜が復活した。併乍現代に於てはマリア崇拜は大分勢力を失ひ。カントの人類教も現代の理想から遙に後れて了つたのである。

日本でも聖武天皇の皇后光明皇后の如きは佛教の感化を受けて慈善事業を起された。又和氣清麿の夫人廣虫も佛教を信じて慈善事業を起した事は日本歴史の明示する處であつて、婦人の社會的位置は中世紀にありては世界各國とも高かつたか、降つて武士の跋扈した封建時代から婦人の位地は漸次底下して奴隷の如き境遇に陷つた。尤も現代では總理大臣を始め華族富豪か藝者なるものゝ御機嫌を取つて之れ日も足らざるの觀がある。藝者の前に出ると三拜九拜である。そこで或意味に於ては現代と雖も婦人の地位は高いかも知れないか、先づ日本は最も婦人の壓迫せられてゐる國であると思ふ。

（三）婦人參政權運動の眞相

或は又歐羅巴に於ては今婦人參政權運動といふものが非常に旺んである。日本人に言はしむれば女は臺所にゐるべきものであつて、餘計な事をやるべきものでないといふかも知れぬが、併し彼等の内情に立入つて觀ると大に同情の掬すべきものを發見するのである。今婦人參政權運動の起つてゐる英國婦人の如きは、其能力に於ても體力に於ても男子に讓らないのである。然るに其職業によつて得る處の賃金は常に男子の半分甚しきは三分の一位にしか爲らぬ。實に不公平の甚しきものである。英國に於てすら此虐待がある。況んや獨逸、佛蘭西、露西亞、亞米利加に於ておやで、婦人の勞働者は非常に壓迫せられてゐるのである。今日倫敦、巴里、伯林、彼得堡、紐育、勃斯頓などは夜になると婦人の淫賣を働くものがある。之には種々の原因もあらうが、其大多數は生活の壓迫より來るものである。彼等は如何に働いても相當の賃銀は得られない、ボンネットも靴も指輪も買ふことが出來ない、それが爲めみす〳〵魔道に導かれるのであるが、此有樣を見たる今日の婦人參政權運動者、例へば其代表者たるトラメン夫人の如きは憤慨に堪えず、四面楚歌の中にありて罵言讒謗

をものともせず、是非其參政權を得て英吉利の政治の上に公平を得なければならぬと運動を初めたのである。而も其運動は實に猛烈を極めてゐる。私は彼等の一人に向つて貴女方の精神は感服するが、其行り方には感心出來ないといつた處、其麼馬鹿な事はない。貴下方が露西亞人に勝つたのは戰つたからではありませんか。あの砲彈、あの爆烈彈、あの白刄を閃かして突貫したからこそ勝つたのではありませんか、私等は其眞似をするに過ぎないのです、何所が惡いのですと答へた。斯ういふ譯で吾々は其運動の有樣を新聞や雜誌で見た時などは、英吉利の婦人は定に御轉婆娘であるとしか見えなかつたのであるが、彼等の眞情を窺ふと實に其中には一種の人道上の光が燃えてゐるのを發見するのである。吾々は此點に於て彼等に大に同情しなければならぬのである。

(四) 公娼問題は國家の急務也

飜つて日本の現狀を見るに、日本には觀音崇拜がある。一體觀音とは何であるか、大慈大悲の神である。實際の所を言へば神は父にして母を兼ぬるものである。山室大佐の著『平民の福音』を見ると、觀音堂の前に一方に道樂息子の親父さんが、息子が道樂して困るからどうか道樂が矯まるやうにと祈つて居れば、一方では遊廓の主人公が客足が少いから、どうか觀音樣の御利益でもつと客足がつくやうにと祈つてゐるといふ事が書いてある。大慈大悲も斯うなつてはしやうがない。一體大慈大悲の觀音が東京の人には誤解されてゐる。大慈大悲の觀音が祭られてゐる淺草なれば淺草はもつと麗しき場所でなくてはならぬ。然るに其近邊はどうであるか、近頃東京朝日新聞が淺草の暗黑界を書いてゐる通り、實に溷濁せる空氣は淺草の天地を蔽ふてゐるのである。日本帝國の最も腐敗したる場所は何處であるかといふと、東京の淺草區である。淺草區の最も腐敗したる場所は何處であるか、遺憾ながら觀音堂附近なりといはざるを得ない。東京市民は淺草觀音を拜んでゐるが、淺草觀音は風俗を壞亂する神樣であるといふ樣な事實となつてゐる。

日本國民が戮力一致して解決しなければならぬ問題は公娼私娼の問題である。吾々は同じ血を分つた所の婦人等が己が肉を鬻ぐといふ樣な肝腦地に塗れてゐる慘怛たる境遇を見てどうして默視する事が出來やう。我等は民族發展の上からも起つて大に姉妹の爲に鬪はなければならぬ。日本も朝鮮を合せて六千三百萬の人口を有する譯であるが、何をやつてゐるか、英吉利は四千三百萬の人口を以て世界の六分の一を支配してゐる。如何程日本が威張つて見た所が其生活の程度、智識の程度、健康の程度の如き到底世界の一等國と誇る事は出來ないのである。日本國民が婦人に地位を與へて婦人の特權を擁護し、之を良妻賢母にし、男子と女子が對等に社會に立つの時代來るにあらざれば、吾々は安心して日本國民が第一等國民族であるといふ事は出來ないのである。今や我日本は税源がどうの、海軍擴張がどうの、種々の問題が起つて居るけれども、併し何よりも大切なるものは婦人問題である。日本の將來はかゝつて婦人の双肩にある、婦人の地位が高くなれば日本民族も高くなる、婦人にして依然として辱められて居れば日本國民は永久に二等國民、三等國民として頭を上ぐる事は出來ないのである。

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

廢娼後の群馬縣（つゞき）

廓清會群馬支部
常務委員　松宮彌平

潜んで居ることは、誰人も明に認めて居る。果して、公娼は密娼を防止し得るとせば、淺草六區界隈の密賣淫婦は、斯く吉原の公娼と殷盛を相競ふは抑も何故であらうか。

斯くの如き事實は決して淺草のみに止らない、今、之れを群馬縣の市町と其附近縣下の市町との實狀を對照したものに就て調査して見ても明確に知ることが出來る。

縣	市又ハ町	人口	娼妓	藝妓	酌婦	人口每千比例
新潟	新潟	五九、六二七	三五〇	二〇七	二四二	一三、四
	長岡	三三、七〇二	一一六	一四三	一〇五	一〇、八
	柏崎	九、九八八	五九	八六	三八	一八、三
長野	長野	三七、二〇二	三一〇	一二八	不詳	一一、一
	松本	三五、九七九	一一五	一五一	不詳	七、二
栃木	宇都宮	三五、九五三	九五	八五	一〇五	七、九
	足利	二五、二六四	五四	七八	四〇	六、八
千葉	千葉	三〇、〇四四	七四	五一	八七	七、
	銚子	三三、五〇七	三九	二一	一二五	五、五
山梨	甲府	四七、五四九	一二三	一二八	九五	七、二
●群馬●	●前橋●	三七、一九七	—	一〇一	五八	四、二
	高崎	二八、二〇九	—	七八	一二四	七、一
	伊勢崎	八、三二五	—	三九	二〇	七、

表中長野松本兩市の分は酌婦數未詳なれば不得止其儘にて人口每千比例

第二、**密娼と公娼との關係**である。非廢娼論者には常に公娼を以て私娼即ち密賣淫を防ぎ得るといふ迷謬がある。此迷謬は頗る久しいもので、群馬縣に於て、始めて貸座敷の業を更むるの建議案が、縣會を通過した時に、當時の縣高等官會議は、其建議を採擇實施する事を躊躇したのであるが、其理由として『公娼を廢止すれば密賣淫の增加する恐がある』といふ一個條があつたことが、今も猶ほ記錄に存して居る。爾來三十有餘年、同一の理由は到る所に繰り返へされて、世は大正の昭代となつた今日の文明社會に、依然として公娼なる野蠻の遺制が殘つて居る。しかし、公娼を以て密娼を防制し得ると見るのは、これ程皮相の觀察は恐くは他に再び有るまいと思はれる。譬へば、幹と枝との關係であつて、公娼の存する所には必ず密娼が伴ふて居る、公娼は以て密娼を防止し得るどころでなく、公娼と密娼とは相呼應して風俗紊亂の急先鋒となつて居るのである。之を最も手近く實事に見ることの出來るのは、東京の淺草で、淺草には天下唯一の醜窟吉原があるに拘らず、しかも、其附近界隈には、吉原廓內に飼はれて居る娼妓よりも、より多くの密賣淫婦が、魔窟を構へて

數を示したるも酌婦數を加算すれば從て比例數も亦增加すは勿論なりとす。

右は群馬青年會が、委員を派して附近縣の風俗調査をなせし際に、以上の各市町に就きて、其人口を基礎として、其市町に於ける醜業婦の割合をも取調べた結果である。之れに由て見ると、前にいつた通りに、公娼は決して密娼防止のためにならないといふ事が益々明瞭になる、今、少しく此の表に就て說明して見たい。

言ふまでもなく、該表中の各市及び町は、群馬縣のを除きては悉く公娼を有する土地である。然るに、其各市町ともに有娼地たるに拘らず、私娼と見做すべき藝妓及び酌婦の數は極めて少なくない。彼の栃木縣は何處も同じ花柳病の防遏とか、風敎の維持とかの理由の下に、公娼保護の方針で密娼取締を勵行するといふ評判で有名であるが、其栃木縣の首都たる宇都宮市の私娼と目すべき藝妓及び酌婦の數は、公娼數の二倍である。又た、同縣の工業地である足利町に於ては二倍を超へて居る、警察が方針として公娼保護密娼征伐に努力してさへも、猶ほ且つ其通りであつて見れば、其他は推して知るべしといはねばならぬ。然るに、之を二十年來の廢娼地たる群馬縣の市町と比較すると、群馬縣とて公娼を有せざるに拘らず、別に藝妓及び酌婦の數が多いといふ譯でない。槪して相似たものといふのが適當であつて、結局は、藝娼妓酌婦の總體を引括るめた醜業婦といふ上からいへば、群馬縣の市又は町は、假令ひ藝妓酌婦の數は他縣の其れと異ならないとしても、全然、公娼が無いだけは醜業婦の數が少ないといふことになるのである。同時に、この群馬縣の現狀は、公娼無くとも特に密娼の增加するものでないといふ事を證し、一方他縣の現狀は、公娼が有つても密娼を壓減することが出來ないといふ事を證することになるのである。

次は該表によつて、其各市及び町に於ける人口に對する醜業婦の比例を見るのであるが、之れも亦た公娼が密娼防止に對して何等の効力なきことを示して居る。先づ試みに、新潟縣に就て見るに、同縣にては人口每千比例上、新潟市は一三、四。長岡市は一〇、八。柏崎に至ては一八、三といふ驚くべき多數の醜業婦を有して居る。而して、斯くの如き割合を見るのは、無論、其中に娼妓數も含んで居るのであるが、卽ち娼妓も有るが、同時に藝妓や酌婦の數も多大なる結果である。換言すれば、公娼と私娼と相擁援して助長した風俗狀態が、數字の上に現はれたのである。

翻つて、公娼を有せない群馬縣に就て見るに、同縣下に於ては風俗取締の緩漫なるが如くに評された高崎市に於てさへも、其人口每千比例は七、一の醜業婦である。此の數は同縣なる前橋市又は伊勢崎町に比すれば、多數であるが、他縣の有娼市街地に比すれば、必ずしも多數ではない、否、寧ろ少數の側である。殊に前橋市の四、二は表中で飛び離れた無類の僅少數で、新潟市に比して三分の一に足らず、柏崎町に較ぶれば實に四分の一にも足らない。由來新潟縣は娼妓の產地で、其地亦公娼殷盛を極むる所、群馬縣は之れに反して非公

娼を標榜し多年廢娼を實行せるの地、兩々相比較し來つて如上の狀態を見る、誠に意味がある事を感ぜざるを得ない。

以上、かゝる狀態から推論すると、公娼が密娼防壓を理由としての存在は、更らに意識の無いことである。加之、現今の公娼は、密娼の防壓機關とならないばかりでなく、却て密娼跋扈のために、自己存在の困難を感ずるやうな有樣で、臆面なく其筋の保護を哀願するに至つて居る。數年前のことであつたと記憶して居るが、淺草六區の醜業婦の跋扈が甚しいために、吉原の貸座敷業者が、自分達の營業を妨害せられるといふ理由で、密賣淫婦取締の嚴勵ならんことを、其筋へ願出でやうとしたとかいふ記事が新聞紙上に現はれたことがある。之は實に面白い現象であると思ふて一讀したのであるが、此の一事は當時、既に具眼の士をして、吉原＝政府が公許して居る娼妓制度が立派に備はつて居つても、其附近には矢張り密娼が殖へる、而して公娼はありながら、之を防壓する役にはならないで、却て自己存在の危險を恐れて、其筋の保護を哀願するやうな有樣では、公娼不必要の的證であると感ぜしめたのである。

斯る狀勢を以てすれば、密娼防壓のためには公娼制度の外に方法はないなどと机の上での皮相論をやつて居る中に、防壓どころか、逆に密娼が膨脹して公娼を追ひ捲くつて仕舞はないとも限らない。

果然、其的例は千葉縣にある。恰度一二年前に、千葉縣に旅行した一友人が銚子町まで行つて歸つて來ての視察談に、銚子の町には二ケ所の遊廓がある。其上に其中間に一大魔窟がある。此町は人口三萬位の町であつて、其處に二個所の遊廓があるさへ、驚くべきことゝ思はれるのに、其上に猶ほ大魔窟もあつて、多數の密賣淫婦を蓄へて居る。而して其遊廓には四十内外の娼妓が居るに過ぎないが、魔窟の方には優に其五倍即ち二百以上もあらうと思はれる醜業婦を飼つて居る。しかも、其魔窟の勢力は非常なもので到底公娼の及ぶ所でない、遊廓の方は爲に日に壓倒せられて漸次衰退し、殆ど之を維持することも出來ない場合に瀕して居る云々とあつた。實に今日の形勢では、公娼が密娼を抑へ付けるところでなく、全然其反對に密娼が公娼を融ひ盡さねば已まぬといふ勢である。この實狀を知らないで徒らに公娼制度の存在によつて、密娼防壓の策を得たりとするのは迂潤も亦甚太しい。

要するに花柳病の豫防にせよ、密娼の防壓にせよ、何の點から考へても、公娼制度は更らに其効力を認めることは出來ない。然るに何を苦んで斯る蠻的制度を今日も亦今後も之を保持せねばならぬのであらうか、人道を無視し、道徳を無視し、風紀を無視してまでも、之を存續する所以があらうか。

公娼制度は當局者が無暗に公娼がなければ、花柳病も蔓延し、密娼も增加するといふ先入思想に支配せられて、大阪へ行くのに新橋と上野とを取り違へて青森行の汽車に乘つたやうなものである。世の識者が幸に、先進廢娼を斷行した群馬縣の實相に鑑み、有娼縣地の風俗狀態に質し、公娼全廢の爲に勞を辭するなくんば、我國家の幸福は蓋し尠少でない。(完)

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

輿論の聲

二

女子の墮落と家庭

東京日々新聞

不良青年と相併びて、之と同樣の徑路によりて墮落し、同樣の罪惡を犯しつゝ、帝都に跋扈する女子の甚だ尠からざるは、吾輩の一層慨歎に堪へざる所。特に彼等女子の多くが相當の身分ある家庭に育ちしものなりと云ふに至りては、其家庭の不取締の甚しきを證明すると同時に、相當敎育ある女子にして輕佻にして徒に虛榮にのみ憧憬するの外、誘惑を反撥し、脅迫に抵抗するの信念を缺き、其生命とも云ふべき貞操の重んずべきをすら知らざるを表示して餘りあらずや。中に就きて、我より進みて男子に接近し、却て男子を飜弄して佚樂の資となすものあり。こゝに至りては娼婦も猶ほ及ばず、腐敗墮落の極にあらずして何ぞや。吾輩は必ずしも舊式にして窮屈なる道德論をなし、以て新しき敎育を受け、若しくは受けつゝある所謂新しき婦人に對せんとするにあらずと雖も婦人の婦人たる生命の如何を解せず、貞操を玩弄物視するの甚だしきに至りては、唯之を以て社會の風潮の然らしむる所なりとして、輕々に看過する能はず、下小學校より上りて各種の女學校に及び、其修身敎育に於て、甚麼に貞操の重んずべきを敎へつゝあるか、又其訓育の効果那邊に迄及ぶかにつきては、吾輩の疑念とする所、及び異議を挾むべき所多しと雖も、今姑く之を別問題とし、單に家庭の關係上より之を論ぜんか、中流以上の身分にして、而も相當敎育ある女子が縱令脅迫あり誘惑ありとするも、直に之が爲めに墮落の徑路に向ひて進み、言ふに堪へざる汚行を敢てするに對しては、其家庭は固より大部分の責任を負はざるべからず。主人の素行修らざるが爲めか、主婦の貞操全からざる爲めか、抑兩者相待ちて家庭に腐敗の空氣漲り、子女之が爲めに惡感化を受くるに始まり、弱點を有する婦女子は、終に社會の惡的誘惑に反抗する能はざるに至るのみ。上流社會の婦人、往々にして醜聞を流すものあり、此等婦人は、敎育なきにあらず、又相當の智慮なきにあらず、而も徒に目前の虛榮に迷ひ、一時の佚樂を貪らんとして、其身分を忘れ、其境遇を顧みず、畢竟其家庭より受けし惡感化の爲めに、貞操の何ものなるかを解せざる程、良心の痲痺せる爲めならずとせんや、此等婦人中には、所謂貴婦人を以て稱せられ、自己も亦輕羅を風に飜へさせ、馬車自動車の上、傲然として衆人を眼下に見、得々として街路を疾走するあり。而も一度其行く所を探れば、云ふに忍びざるものなからず。自ら墮落する猶可なり。其互に親しき友を誘ひ、等しく墮落の淵に沈ましむるに至りては

Digitized by Google

Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

かの所謂女愚連隊の主惡が、甘言美辭、無垢の淑女を欺き、以て其同類に引込むと何の相違かある。警視廳當局者が、女愚連隊の主惡を檢擧せしは頗るよし。何ぞ更に進みて上流社會に於ける此等墮落のバチルスを懲罰し、以て害毒の瀰漫を防遏するの策を講せざる歟。抑此の如くして上流社會にも、其實愚連隊の存するあり、婦女子の貞操を重んせざること今日の如く、其鞏固なる信念の存せざる今日の如く、其輕佻浮薄にして虛榮これ慕ふこと今日の如くにして、墮落女子の續出する、何ぞ異とするに足らんや。而て其腐敗墮落、沮柢は家庭の紊亂にあり不取締にあり、學校教育の威權なきにあり、德育の感化浸潤せざるにあり、其本源を清めずば、吾輩は如何に警察官の取締嚴重なるも、腐敗墮落者は、續出して止まざるべきを虞る。吾輩の婦女子の貞操を論ずるに對しては、當世式の新婦人は女子の貞操嚴守に對して、男子も亦貞操を嚴守するの義務ありと云はんか。吾輩も亦敢て之を非とせず。然れども男子の貞操を嚴守せざる實あるを以て、女子の貞操に關する辯明とすべき何等の理由あることなし。女子の生命は其貞操にあらずや。女子は先づ自ら其身を修めざるべからず。況んや其敗腐墮落の國家社會の盛衰に關すること、大なるものあるに於てをや。美しき家庭と、嚴肅なる家庭とを見るは、主として主婦の力に俟つ。家庭既に修まらば、子女の取締も十分に行はるべく、隨つて其腐敗墮落を防遏し得るの効あるや固より論なし。不良青年と不良女子の改過遷善、主として家庭の力を要し、腐敗墮落を未然に防ぐ、又主として家庭の力による。家庭は教育界と相待ちて、大に盡す所あらざる可らざるなり。

今後四年の壽命なる　名古屋遊廓

新愛知

當市中區旭廓の遊廓移轉問題は久しき以前より傳へられ、移轉候補地として目され居る愛知郡中村附近、西春日井郡川中村などは地價頓に數倍に暴騰し、早晚移轉命令の下るを期待し居たるが、曩に豐橋遊廓の移轉命令あり、程なく市內南區熱田遊廓も移轉命令に接し、極力延期運動に盡力せし効もなく、遂に稻永新田に移轉したるは、風俗改良上最も慶賀すべき事なりしが、前二遊廓よりも一層改良を要すべき地位にある旭廓に對して未だ移轉の命令なきは其の當を得ず、大を生かして小を殺すの理由なしとして、昨年十二月十四日本縣市部縣會に於て、杉山彌三郎氏より移轉に關する意見書を深野知事に提出する議を滿場一致を以て可決したるが、爾來一層旭廓移轉說の熱度を高むるに至りしが、其間種々なる風

許は傳へられ、土地口入師の活動するあり、或は旭廓各樓主は非常運動に日夜奔走し居れりなど區々なる噂さを生みつゝありしが、俄然昨廿二日本縣知事は縣公報號外を發して從來の貸座敷取締規則に大改正を施し、旭廓即ち花園町、若松町東角町、吾妻町、城代町、富岡町、常盤町、音羽町の八ケ町より成る旭廓妓樓（揚屋全部、現今は妓樓百三十一戸、揚屋十三戸、藝妓屋を除く）を來る四十九年七月三十一日限り現今の場所にて營業を許さゞる事を發表したれば、一時鎭靜に歸したる遊廓側は大恐慌を惹起し、午後より遊廓事務所樓上に役員以下有力者會合し善後策に關して秘密に相談會を開きたるが、右の縣令に依つて見れば移轉地は未だ指定せず、或は名古屋港繁榮策として稻永新田の南遊廓へ旭廓を合併せしむる意向なりとも言ひ、或者は稻永新田、豐橋、岡崎三遊廓へ任意合併せしむる爲め、右の移轉地を指定せざりしものならんと推測されつゝあるが、兎に角永らく問題となりし旭廓移轉問題も今後四ケ年の生命となれり。此の移轉に依りて大打撃を受くるは大須觀音始め附近の商家等にて、遊廓側も從つて運動の手を擴ぐるは必定ならんと云ふが、市内風紀改良の本旨を貫徹するの緒に就きしは最も喜ぶべきことなり。

遊廓移轉と輿論

北羽新報

▲遊廓移轉は何等の議論を要すべき問題にあらず。必然的なる既決問題と見て誤りなからん。能代の面目を保ち其風紀を更むる爲めには數年以前に疾くに斷行すべきものなるも俄かに威力を以て迫るは當業者の大打撃にして能代の景氣にも影響すべければと情狀酌量の上、假すに年を以てせしなり。今や事實に於て全滅し新たに設備せらるべき場合なり、天意と云はゞ天意とも見るべく、今日を空しうして移轉斷行の好機は再びあるべからず。當局も町民も之の好機を逸する程、無算とも不斷とも覺えず。

▲町民各方面の意向を諮すに、後育家宗敎家は勿論の事、郡長 署長 町長の三奉行も責任ある言明はなけれ移轉には賛成の意を漏らし、町會の重要なる委員（坂本、平山、西村 渡邊、竹内、高橋、島田等は）町長の諮問に對し一致の意見を以て移轉說を決し能代青年團は役員會に於て意見發表の方法を議し會長 及役員は警務長を訪ふて陳情するところありしとも聞く。勿論常識ある者の反對すべき事柄にあらざれば、移轉は能代一致の輿論と見て可なるべし。

▲當業者多數の意向は如何、假りに當業者は反對の意ありて

運動がましき擧動をなすとも此大勢には齒も立ちまじく斷々として躊躇すべき事にあらず。況んや當業者も燒殘りの少數者を除くの外殆んと全部は自ら進んで移轉を希望し速に其決定あらんことを當局にも願出て町有力者にも其意を開陳したり。燒失せる多くの當業者は、社會の趨勢を察し、移轉の止むなきを悟り、寧ろ速かに此が決定を仰ぎて安全なる保護の下に其業を營まんとするものにして、相當の所爲と云ふべきなり。

▲されば問題は既に移りて實行方法の上にあり。如何なる地域に之を移すべきか。意見は區々たるべく、當業者の希望も自らあるべし。移轉地に依りて能代の繁榮に影響するところは大なり。單に理想的に云へば遠隔の僻地に幽閉するは風紀にも警備にも可なれども、斯くては當業者は破產の止むなきに至り能代も著しく其繁榮を殺がるべし。且つ貸座敷業者を得意先として營む生計の者は一時に其得意全部を失ふこととなり困難甚たしかるべし。是等を濟ふ爲めにも多くの注意を拂はざるべからず。刻下に迫れる急務は最も迅速に決定を下し再設を短日月の間に成すにあり。不景氣の今日不得要領の間に時日を經過し家を建るにも建てられず方向に迷ひ居る有樣にては苦痛知るべきなり。

▲本紙は移轉問題に就きて大聲叱呼せず。卉は此問題は波瀾も曲折もなく遂行せらるべしと信ずればなり。若し夫れ大勢を知らざる非常識の徒ありて、猥りに抗辭を弄し或は政治ゴロ等を傭ひて官憲に運動するが如きあるか、又は當局者が其運動を受けて優柔不斷時機を逸する虞あらば、本紙は猛奮して起ち堂々の筆を振ひ、演說集會其他の方法に依て世論に訴へ、進んで中央論壇の一問題となし、政府の視聽を動かし移轉の止むなきに至らしむべきは勿論なり。

能代遊廓を移轉せよ

秋田魁新聞

今回本社が移轉問題を起せるに對し、山本郡の某有力者より石田本社員宛次の如き意見と激勵の書を寄せられたり曰く▲今回能代遊廓全滅に付き、御社逸早くも移轉問題を御主唱被下本郡風敎の爲め、誠に感謝の至りに不堪候▲遊廓の移轉は小生の宿望にして能代の淫風を矯正致す可く、第一着手として市內混合の遊廓を移轉し以て町の權威を高むる樣機會ある每に能代人士に說き居りしも、遂ひ其機を不得居し處今回の全滅を期し多年の宿望を實行致申候▲昨日出張致し有力者數名の意見を叩きし處何れも早晚移轉せらるゝものならば此機を逸せず、移轉せしむる方得策ならんとの事に候も何れも陣頭に立て風紀上の爲め、移轉を叫ぶもの無之甚だ遺憾に存じ居り候▲或者は未だ賣淫によりて能代の繁盛を來すなど下らぬ考へも有之且つ四圍の事情を顧慮する樣子もあり、大に獅子吼するものなきやうに候へば大に激勵被下度候▲山本郡民の道義の念などは、全く幼稚極まるものにして先般北羽新報が、如何にして能代を改良すべきかの意見を郡內數十名の紳士に徵せしに、遊廓の移轉を唱へしもの二人許りに候▲右に就きても如何に本郡紳士なるものが彼の遊廓なるものに對し、良心の痲痺せしかを推知せられ申候▲何卒此場合貴紙上に於て一層熱烈の筆を以て輿論を喚起せられ、以つて本郡の最も醜辱とする遊廓の一日も早く移轉出來得る樣、郡の爲め御盡力被下度御願上候▲縣當局者は無論移轉を命ずる事と確信致し候へ共、尙ほ一二分警戒被下度萬一當局者に於て早速解決せざるに於ては能代に演說會を開催して、反省を催し度考へに付き御序の節縣廳の方針御一報奉煩度候匆々（山本一郡民）

嗚呼明治大帝

●先帝の御事ども

▲御降誕

先帝には嘉永五年九月二十二日正未刻(午後二時)と申すに、京都石藥師御門内なる中山亞相の邸にあれましたまふ。此日天いと麗らかに晴れ渡りしかば、御七夜には目出度き空色の御産衣を參らす御父孝明帝、この皇子に御名を祐宮と授け給ひ、亞相中山忠能卿と中山慶子(故一位局)とに御養育掛を仰せ付けらる。御乳の人は初め伏屋美乃子奉仕し、後入谷容子承はり、其他御附人數名にて最と健やかに生ひ立たせ給ふ。安政三年御齡五歳と申すに、仙洞御所に隣れる親王御殿に移らせられ、正親町實德卿を傅として御學問あり、御學友には岩倉八千丸(前公爵具定)裏松良光等を召させらる。天資英邁なる宮には御成績極めて優れさせたまへば、御父帝の御寵愛もまた一入にて、六典侍四内侍の才媛麗姫中より、才操拔群と聞こえたる紅梅の典侍と高松内侍とに仰せて宮に侍かせ給ひしほどに、名玉益す光りを發して、御聰明愈よ加はらせ給ふとぞ聞えし。

▲御幼年時代

安政六年、宮は御齡八歳にならせ給ふ、當時尊王攘夷の說天下に起り、王政復古の義を唱ふる聲四方に囂しく、志士京洛中に充ちたりしかば、孝明帝には、皇室の武威を示し給はんとの大御心より、この年六月觀兵の盛儀を擧げさせ給ふ。式場は日の御門前なる廣場なり、やがて當日となるや、今日を晴れと打扮ちたる各藩の士卒は、寅の一天より屯所々々を立出で、甲冑旗指物を、さし昇る旭日に輝かして式場に集まる。辰の上刻(午前八時)孝明帝には祐宮を始めとし、各皇族殿下、公卿百官を從へさせられて、菊花御紋章附紫縮緬の幔幕打つたる正面の御棧敷に出御あらせらる。一發の砲聲を合圖に、貝鐘の響、太鼓の音、朝の空の雲を破りて、數萬の貔貅一齊に動き、人馬戛々、大調練の始まるや、主上は申し奉るまでもなし、宮の御機嫌斜ならず御まじろぎもせで覽はすほどに、午時近く一片の風と共に雲起りて、雷鳴電光凄まじく、大雨沛然として至りぬ。赤地の御振袖に、菊綴の御長袴いと優に見上げ奉る宮には、風をも、雨をも、雷をも物の數とはしたまはで、御簾を掲げて端近う出で立ち給へば、この日の總大將を承りたる蜂須賀阿波守、遙かに御棧敷の方を仰ぎ奉りて『あはれ此君の御勇ましさよ』と感涙いとゞせきあへず、鎧の

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

袖を濕らせしとか聞く。後元治元年、京都の變ありて兵火宮闕に及びし時、宮は御齢十二歳、前關白近衞忠煕公の供奉にて難を鴨河の磧に避けたまふ。宮は始めて河面を御覧あり『爺や匍へ、騎りてこの河を渡らん』とのたまふ、とかう賺し奉れど聽入らせたまはず、關白の脊に跨りたまひ『はい〱、どう〱』と數十間打たせたまふ、如何に御健氣に渡らせたまひけん。

▲御壯年時代

祐宮には、萬延元年閏三月十六日御深曾木あり。二十八日御紐直しの事あり七月十日皇太子に立たせられ、九月二十九日親王宣下ありて名を睦仁と賜ふ。慶應二年十二月二十九日、父帝崩御。因りて同三年、正月九日、聖壽十七歳にして踐祚したまふ。此時左右の奉侍者には、三條實美、岩倉具視・西郷吉之助、大久保市藏、廣澤兵助、木戸準一郎等の賢良あり。皇室の御陵夷以來御即位の大禮廢れて、正しき式の行はれさること數百年に及べるを慨き、既墜の大典を講じて、翌明治元年八月二十七日御即位の式を擧ぐ。其年九月二十日、車駕京都を發して十月十三日御着輦、江戸城西の丸に入らせられ、改めて東京城と稱す。十二月八日、東京御發輦、京都に還幸あり。更に翌二年二月京都御發輦、都を東京に遷させ給ふ。當時廟堂には前記の如き賢良の名臣袖を列ね、侍中の臣にも、侍講に副島種臣、元田永孚等あり、侍從に山岡鐵太郎、高島鞆之助、村田新八の如きあり。是等侍中の臣は何れも壯年血氣の人なれば、旦暮力を角しては、主上を慰め奉りしに主上も亦時としては、玉體親く御力を試させ給ひしと一再ならずと承る。明治三年主上の御服を洋服に更めさせられし折には、當時の少數なる進步主義者と、多數の保守主義者との間に激しき議論ありしも、副島種臣が『趙の武靈王は胡服して胡を征す、今我邦洋服を用ふるは、武靈王の心を以て心とするなり』との說に、西鄕隆盛先づ贊同して議漸く決し、此旨奏請せし所、主上御嘉納ありて直に御斷行あらせらる。濶達果斷、まことに興國の氣に富ませたまふこと、恁くの如くおはしき。

▲御孝德

先帝の御孝心深くましますこと、御父帝御在世の砌は申すまでもなし、崩御の後も毎年一月三十日の御祭典を親しく行はせ給ひ、朝な〱の御靈前の御參拜、一たびも缺かせ給ふことなかりき。また御母宮英照皇太后に對はせられても、同じく御道を盡させ給ふ。皇太后崩御の折、御容態御危篤の趣 天聽に達するや、先帝には供奉の整ふ間をも惜しませたまひて、青山御所へ御幸あらせられしことあり。恁て御大葬仰せ出だされし後も、萬般の事御親裁遊ばされ、靈柩御發輦の時刻には、御喪服の儘御內庭に出御ましまし、靈柩御出門ありて、新橋停車場御發車に至るまで數時間、北風凛烈たる寒天に立たせたまひて、遙かに御見送り遊ばされたる御孝心のほど、拜承するもいと畏し。また祖先崇尊の御心に富ませ給ひ日々宮中にて賢所御參拜あり。行幸中にあらせられても、御遙拜を怠らせ給はず若し夫れ國家に大事件あれば・必ず勅使

を宗廟に向はせ給ふ。又祖先崇尊の大御心より皇統譜完成の御企圖あり、明治七年以來之が編修をなさしめ給ふ。また神器を崇ませ給ふこと一方ならず、御宮居の御庭近く神器の間を設けさせられて御劍御璽を安置し奉り、帝都の外に行幸の折には、錦の覆ひしたる御箱に納めさせられ、內大臣秘書官之を奉じて扈從し奉る等、皆是れ御孝德高く渡らせたまふに由れりと洩れ承るぞ有難き。

▲御仁德

先帝御仁德の厚き、常に民安かれとのみ念じさせ給ひ、天候不穩の際には中央氣象臺に御使の立つ事日に幾回なるを知らずと承はる。わけて米作期には、農作の狀況に大御心を注がせられて天變地異の御研究を苟且にし給はず惡疫流行の事にも平素御潛心遊され、貧民、不具者、戰死者、癈兵等に對する慈惠救濟の費用は多きを厭はずと仰せられ、民間慈善事業の盛んなるを聞し召されては、喜ばせたまふ事限りなく、また行幸あらせらるゝ折には供奉に命じて種々の御注意あり明治十五年行幸の時の御事ども、承はるだに忝くて聖恩骨に銘ずる心地す。初め行幸の思召あるや、先づ官吏を其地に分遣し・御道筋の土地の詳細を調査せしめ、後行幸を其縣に傳へ、併せて條令を頒ち下させ給ひてけり。大意を承はるに、凡そ國々の治を察し、所々の風を視るは、實景を專らとして民をして厭しめざらんことを要す、されば道路橋梁の類は僅に車騎を通ずれば足りぬべく、行在所 諸官舍は風雨だに凌ぐことを得ば、敢て美しく粉飾を施すに及ばず、民を使役し、家に飮食するあらば、其事に與るものには其値を給せよ、民の秘め持てる寶ありとも、進め奉る事を許さゞれ、又御道筋の住民も安堵して日々の生業を休ましむるが如き事なからしめよ、老幼相扶て威儀を拜觀する者あらば呵斥を加ふること勿れ、逐ふこと勿れ、孝子烈女は更なり、力を產業に致せるもの、年老いたるもの、才學の衆に超えたるものあらば、備さに狀を具して聞え奉れとの御事なり、是れ皆民を愛しみ勞はらせ給ふ大御心に出づ。されば、庶民の先帝に對する、宛ながら赤子の慈父に於けるが如かりしも道理なきにあらず畏しとも畏し。

▲御製

さて御製は如何にして遊ばし給ふかと伺ひ奉るに、大行天皇には常に一冊の御手帳と一本の御鉛筆を持たせ給ひ、御親しく記させ給ふといふ世間の所謂歌人といふ者の如く机を浄め靜坐して一日に二三首を詠み出づると趣を異にして歌道の爲め御時間を徒に過させ給ふ事なく時に觸れ折に觸れて思ひ浮べ給ふまゝを三十一文字に綴らせ給ふ、御製の神の如く速なるは近侍の人々の感嘆し奉るところなり。高崎男も曾て御製の御達吟なる恐らくは今上下に例あるまじと讃し奉りしとなむ、陛下には如何なる風物を御詠あらせ給ふかと言へば多く國事の事敎育さては軍事の事五穀風雨の事などにて絶えず聖慮にかけさせ給ふ事のみにて此れが直ちに金玉の御製となりぬるなり。大行天皇が御繁劇なる御政務の間に絶えず御製をあらせ給ひしを拜しては

世の安閑として日を潰す歌人なんどには廣大無邊なる敎訓ならずや。

▲御文德

御製は一ケ月に一回か又は隔月に一回數百首を高崎男に下げさせ給ひしが例なり。高崎男は齋戒沐浴して禮裝し謹んで拜見す。御製は御宸筆のまゝなると女官の拜寫せるものとあり、男は御宸筆には朱を加へ奉らず拜寫して而して筆を入る、點は最上は圈二つ次は圈に點二つ、それより圈に點一つ、圈のみと點のみの五種あり、過ぐる日露役の頃或る老農が伜を召集されてより明暮にも田を耕さずたゞぶら〱と日を暮しゐたるが一日新聞紙に掲げありし御製

子等はみな軍のにはに出で果てゝ
翁やひとり小田守るらん

てふを其の老農が拜誦して感激一方ならず直ちに心を改めて遙に皇城を拜し生れ更りしやうに田畑を汗水垂して耕し豐作の嬉しさと伜の無事なる顔を見るを得たりといふ一首の御製が老農を感憤せしめし事斯くの如し御文德の無邊なる唯々感激の外はなきなり。

▲御巡幸

去る十四年の秋北海道御巡幸の砌陸中盛岡なる菊地金吾方に御駐輦ありしが同邸の庭園には蛟龍の雲を望めるが如き老松あるを大行天皇には深く御賞美あり此松こそ過ぐる九年に來つる時にもその振面白きを賞して今に忘れず何日見ても美事のものよと御褒詞を賜ひ「見馴れの松」と御命名ありしより主人金吾の喜び此上なく家門の光榮として直ちに川田剛氏に選文を金井之恭氏に書を請ひて樹下に紀念碑を建てたり、又曾て山縣公に松苗を賜はりし事あり公は恩賜の松とて手を盡し丹精培養したる甲斐あり年毎に勢ひつけるより或る時「恩賜の松苗今は殊の外に成長し大木となり候之れ國家繁榮の吉瑞に候はん」と申上げしに大行天皇には御滿足に思召され直ちに

送りにし若木の松の茂り合ひて
老の千歳の友となるらん

と御製ありて元帥に賜りしより元帥には重ね〲の光榮に感泣に堪へざりきとなむ。

▲御崇祖

大行天皇には殊の外御皇祖を崇めまつられ給ふの大御心厚く夙に皇統譜を御完成相成り山陵の御修繕に御意を用ゐられ給ひ從つて每朝御遙拜所にて伊勢大廟を拜し國家安隱の御祈念ありき

國民の一つ心に守りけり
遠つ御親の神の敎を

の御製を拜するにつけても思召の程恐察し奉るに餘りあり斯く御敬神にあらせらるゝ大行天皇には又極めて御孝心深く孝明天皇崩御の砌には東宮御所に在ませしが折柄御微恙中なりしにもかゝはらせ給はず侍臣の御止めをも却け給ひ供奉揃も待たせられず急ぎ御參内の上熱心に最後の御看護申し上げられぬ。

たらちねの親の心を慰めよ
國につとむる隙のある日は

の御製は大行天皇が御孝心の眞情を表はし給ひしものにて億兆の龜鑑として仰ぎまつるべき也。

L—868

▲御仁慈

大行天皇が下萬民の上を思召し給ひし御事は畏き程にて如何なる酷暑の夏にも曾て御避暑等の御沙汰なく冬はストーブを廢させ給ひ暴風雨の折などは中央氣象臺に對し農家に被害等なきや臣民に怪我なきやと御下問あり九重の奥雲深けれども民草を愛しまれ給ふ大行天皇には警鐘に御耳敏くあらせられ其の音御耳を驚かせ給ふ時には畏くも玉體を御緣にはこばせ給ひ大空の紅ゐなる方を眺めさせられ類燒戸數など詳細に聞召され給ふ。去る十一年新潟縣下行幸の砌御通路兩側は人垣を造れる奉迎者中に眼病に罹れるもの著しく多きを御馬車中より御目とめられ御旅館に入御の後侍從を召し其原因等御下問ありしより侍從は此地方目下眼病流行の旨奏上したるに大行天皇にはいたく御軫念あらせられ即刻當時の侍醫伊藤方成氏を遣はし給ひ御慰問の事あり數千金を賜ひて御救濟あらせられたりとなむ御製にも

古の文見る度に思ふかな
己が治むる國はいかにと

▲御儉德

陛下まします千代田の御宮居は始め二千萬圓の工費にて建築しまつるべき筈なりしが御折柄御巡覽ありて仰せ給ふやう「如何に泰平の世なりとも諸民悉く豐にして其所を得る者はあるまじ左れば朕の宮城のみ莊嚴にせん事朕の願ふ處に非ず」と依つて其費用を減じたりとなむ御儉德の程眞に畏しとも畏し。陛下の御儉德の例は一に之のみに止まらず例年豫算編成に於ても宮內當局者を召され苟も祖宗の御祭典及び慈惠救濟の費用は多きを厭はざるも其他の調度費は節約を旨とすべしとの御沙汰あり日常の供御は素より宮中の諸調度等は總て質素を旨とせられぬ。曾て宮中の絨氈甚だしく損傷せし時の如き取換奉らんとせしに其儀に及ばずと御採用なかりきといふ此一事にても日常御儉德の一斑を推し奉るべき也。

▲御增費御不許可

もと帝室の財政は年々國庫より提供する三百萬圓・日清役後政府より獻納する三十萬圓の利子、日露役後國庫債券二十萬圓の利子、日本銀行株九萬六千六百六十株、正金銀行株六萬四百株、日本興業銀行一萬株、臺灣銀行株二千五百二十一株、郵船株八萬五百五十株、東京瓦斯株二千株、東京電燈株五千八百三十九株、富士製紙一萬株、日本水產株五百株、東洋拓殖株五千株及び帝國ホテル其他の會社銀行の株、舊日本鐵道株二萬七千四百二十二株、舊北海道炭礦鐵道株二萬七千六百九十株の國有公債となれるもの等を合せて一億六千萬圓餘、之に御料林二百五萬八千町歩、御料原野十四萬九千町歩を合せて約五億圓餘の御財產より生ずる一切の利子を以て支辨せらるゝ事となり居れるが帝室には列國帝室との御交際も年々頻繁を加へ又竹の園生の御繁昌彌增して御費用御多端なるに拘らず國庫より提供の費用は二十年前と等しければ屢國庫提供額增加の義を申上げたるも陛下には更に御許容なく一層御節約遊ばされ給ひしとなむ。

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

▲御質素

先帝の御質素に渡らせられしは申すも畏き御事ながら一天萬乘の皇帝にましまして其宮居の御質素なる常に玉體を奉安せられるは十五疊の御一間にて絨氈を敷かせられ軒さへ低く御室内古色を帶び御隣室は之も亦十五疊の御一間にして九重の奥深きも暑氣玉體に迫り來れるを電氣扇の御備へもなく唯御足許の方を兩三名の女官達恐る〳〵手扇の運びも緩う涼を送り奉るのみ先帝は平素電燈を好ませられず其御設けなく又御庭前にはパラパラと雜木見えて質素なる石塀の上に盆栽數株あるの外、何の目に映ずべき御裝飾だにも見奉らずあはれ金殿玉樓の裡一代の御榮華を盡させ給ふべき御身を以て盆栽とても僅ばかりの御嗜みに過ぎさせ給はず御障子の紙とても新しき者のみはおらず。又廊下に敷詰めたる簀籐の色黒ずみたるを御張り替もせさせられず一に京都御在朝當時の御有樣を改めさせられずして御最近に及ばさせ給へるものなり。戊申詔書の如き畏くも先帝御平生の御樣子を其まゝの御詔にして今更ながらお

り難く拜承せらる。

歌聖としての先帝

▲六十年間唯一御樂

先帝六十年の御生涯を彩る可き唯一の御趣味は和歌を詠ませ給ひし事なるべし碁、將棋、歌舞、音曲、書畫、骨董・遊獵など、娛樂の道は數多けれども、先帝は何一つ他の御道樂とては無く、唯敷島の道深くぞ分け入り給ひける。

▲日清役の前後

その昔は七卿落の一人たる三條西季知卿に就て御習作遊ばされしが明治十五六年頃より高崎正風男に就て御研究あり、日清戰爭以前までは未だ全く御堪能とは申されず皇后陛下の御歌に比して御點數高からざりしが日清の役を一轉機として次第に御上達遊ばされ御着想と云ひ御形式と云ひ一段の御圓滿にて御製の悉くは殆ど金科玉條として仰きまつるに至

れり。

▲夜間に御作歌

宮居の奥深うして政務を御總攬遊ばす他には何一として御耳目を慰め奉るものとても無ければ聖帝には自然に歌道を御嗜み遊ばされしが皇天子とも仰ぎ奉る御方にて在しながら並々の歌人となり給ひては何かの御差障りありとて高崎男より夜分だけ御詠み遊ばす樣に言上したるに直に御聽許遊ばされ以來晝間は決して御感詠なく夕暮か夜間に限りて御詠じ遊ばされたり。

▲御製九萬餘首

歌人として聲名ありし藤原家隆が一生に三萬首を詠じたるは古來歌數の多き故を以て有名なるが先帝は歌人に在さずして實に十萬首に近き御製を遊ばされ既に數の上に於ても非凡の程を示し給へり歷代の天皇中斯る多くの御製ありしは唯先帝御一人のみにして歌人を以て標榜する在野の輩と雖も先帝の歌道に於ける御努力には到底對立し得べき者一人も有る事

なし。

▲御製の英獨譯

先帝の御製は英譯又は獨譯にされて廣く世界に紹介されたるが世に公にされたる御製は主として實踐道徳に關するものにして世道人心に裨益する所尠からず中にも「四海兄弟」の御題にて「世の中を皆はらからと思へどもなど波風の立ちさわぐらん」の御製はロイドの譯に依りて前米國大統領ルーズベルトの感ずる所となり日露仲裁談判はこれがため大に効果を生じたり。

▲歌人たる天資

御製の發表は先帝これを好み給はざりしも世の風敎に益ありとて高崎御歌所長獨斷にて責を負ひ發表したるが先帝は花鳥風月の机上の歌人と異なり實意實感を主として御詠遊ばされたれば純客觀の御製の中には歌人としての先帝の天資を拜察するに足るべき佳作傑作尠からず殊に日常の御見聞を直に詠じ給ふ御感受性の御鋭敏なりし一事は近侍者の常に驚嘆せし所たり。

▲作家且批評家

全國の臣民より例年詠進する勅題の歌を始め毎月の月次會に下さるゝ勅題歌は悉く御覽遊ばすを常とし單り作家たるのみならず批評家としても在野の歌人よりも優秀なる御批評眼あり世間にては高崎男が御製に加朱したる樣風說する者あれど決して然らず殊に日清戰爭後は次第に御上達遊ばされし事なれば近年は加朱し奉る樣のこと更に之れなかりし由

▲御熱心の實例

五六年前勅題の御詠草を五六首詠ませられ高崎男に拜見仰付けられしが高崎男はこれぞと申す傑作なかりしため普通の點を附して差上げたるに先帝には其の夜新に三首を詠ませ給ひ翌日早々御下げあり今度は優秀の佳作ありたれば高點を附して返上したる由なるがこは歌道に御熱心なる一例とも見らるべく又高崎男が採點を苟くもせざりしを知るべし。

●先帝の御日常

一天萬乘の至尊たる御身を以て日常極めて御質素を旨とせられ多端なる御政務に御勵精遊ばされたるは夙に國民の感激し奉る所なるが更に日々の御起居について御一班を漏らし聊か御平生を偲び奉るべし。

▲御起床と出御

陛下には毎日午前六時を以て御起床と定められ御召替の上御洗面、同七時には御朝餐を召上らせられ御休憩の後當番侍醫の拜診を受けさせられ九時には典侍以下の女官を召して御召替あり黑の肋骨付の御軍服即ち大元帥の御制服を召させたまひ御左胸部に大勳位菊花章の副章、其上部に勳八等白色桐葉章、同瑞寶章、憲法發布紀念章等を御佩用遊ばされ御劍を帶ばせたまふ斯くて午前十時表御座所たる御學問所へ出御あり百般の行政務を臠はせらる。

▲非凡の御勤徳

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

正午には一旦入御ありて御晝餐を召させられ一時再び出御、三時頃迄御政務を御親裁あらせらるゝ御定めなるも時によりては五時六時迄表御座所に在ます事も稀ならず、畏くも重要の御政令には一々御宸筆を以て御署名遊ばされ尙常の御座所に復御ありて後も御政務にたづさはらせらるゝ事あり更闌る迄御休息遊ばされざるやうの御事もあらせられしとこそ承はる平素は午後五時御湯を引かせたまひ六時御夕餉を召させられ大奥に入らせたまひて御物語り又は御製の數々を遊ばされ九時乃至十時には侍醫局鍼醫の按摩を取らせたまひて十時三十分或は十一時に始めて御寢殿に入らせられしとか。

▲御衣の御好み

御表出御又は公けの御時には大元帥の肋骨付御制服を召させらるゝも平素は黑のフロックコートを用ひさせたまひ、地質は近年全く内國製の羅紗にて千住製絨所謹製の黑無地を上下共御用ひあり。一月一日四方拜の御時には御束帶にて出御其他は肋骨付御軍服のみなるも這は二十七八年役御進發以來の御紀念として特に召さるゝ由承はる又先年東京灣に於ける大觀艦式の砌に海軍の御制服を調へさせられ爾後海軍に關する御儀式には海軍服を用ひさせらる、さて又御肌衣は冬は純白の毛メリヤス上下、同じ御靴下、夏は白き麻又は絹のメリヤス御襯衣、夜の御衣は白羽二重にて是等は從來一日限りの御用なりしも近年御儉素の大御心より洗濯したるをも召さるゝと承はるは實に畏れ多き次第ならずや。御襦袢も白羽二重、御寛ぎの御衣にも白羽二重に眞綿を入る其他御夜具も同様、御枕は白羽二重の上に白天鵞絨を覆ひたる筒形のものを用ひたまふ。御足袋は白又は紋羽二重御靴は深ゴムにてキット又はボックス皮にて一年凡そ十六足を御用命あり御靴下の如きも一足一週間を用ひさせたまふと申す。

▲供御の御献立

稀には洋風御料理を召さるゝも大抵は和風御食事にて朝と晝とは二汁三菜、御夕餐には二汁五菜と御定めあり大膳職にて調進し侍醫を經て御毒味役に廻し其上にて御前へ供ふるなり。御膳は白木隅折刳足の御高膳にて菊御紋章付の御食器又は薄手京燒の陶器に盛りて進む。尙鶏肉のスープ及び牛乳を召さるゝが這は御三食の間に五合入の銀瓶にて煮沸し嚴重なる檢査の後差上ぐる由にて牛乳は常磐松御料地の御用牛より搾取りたるもの、果物にてはバナヽを好ませられ新宿御苑にて常に培養す。此外佛國產水蜜桃及大圓(白色の茄子)を御好みありき、魚類は鯛鱧、鱸、鱚、鮎、鰻等の内特に鮎を好ませられ鳥類は鶏肉、鴨・鶉・鴫、雁、雉子等なるが御菓子はカステラ、別製蒸羊羮の如き類、御酒は灘の醇日本酒、佛國產の白葡萄酒、御煙草は九州國分及水戶產を召さるゝ例なりき。

▲寡默愼重の御性

先帝陛下には御發病後も御心堅く忍ばせ給ひて御就床前まで親しく内外の政務を總はせられ御重症とならせ玉ひし後さへ絕えて御苦悶の御聲を漏らし玉はざりしは既記の如し御平素御我慢强く在しま

すこと驚くばかりにて所謂寡默愼重の御性に在まし給ひ何事に對しても漫りに御色を動かし給はず假令叡慮に稱ざる事柄たりとも輕々しく兎角の仰せを下さるゝこと無し日々內閣大臣或は宮內官等が參內して政務上の事共親しく聖斷を仰ぐ場合にも陛下は御詳細に奏上の趣を御聽取遊ばされたる上可然ものに對しては直に御裁許を下させ給へども若し叡慮に適はざる時は唯其まゝ書類等は御手許に留め置かせられて敢て御可否の御諚を下されず斯かる折には平素屢御側近う伺候する大臣宮內官等と雖も全く思召の程を忖り奉るに由なく如何あらむかと竊に胸轟かすこととなるが一度御前を退きて奏上の案件に就て能く能く考査するときは必ず何等か手落あるを發見して今更の如く恐懼するが常なりと。されば陛下が斯かる場合然々斯々と其缺點を指摘し給ふことなく緘默の裡に徐ろに注意を促させ給ふは係りの人々に罪を得させじとの御憐愛に出でさせ給ふならむと拜察せらる。

▲大臣の冷汗

嘗て戰役の折某省の大臣が恐る〱御前に進み出で吏僚の爲に暑中休暇を奏請したるに陛下には少時默然として在すのみなりしかば大臣は「如何心得て然る可きや」と重ねて思召の程を伺ひ奉りたるに陛下は端然たる御態度にて「滿洲の野に在る軍人どもに暑中休暇ありや」との御諚に、大臣ははッと恐縮して直に其奏請の恐なることを悔悟し冷汗脊を沾して退出したることあり又他の某省大臣が細密なる數字表を添へなる豫算書類を捧呈して御裁許を仰ぎたる時何の御言葉をも賜はざりき仍つて大臣は一應御前を罷りて省に歸り更に精細に調査したる處意外にも右の數字表中重要なる項目を缺き居たるを發見し今更御周到なる御眼識に驚嘆し早速書類の御下戾しを願ひたりとか日々閣臣宮內官等より爲す百般の奏請に對し俗に所謂盲目判的の御裁決にても爲させ玉ふ如く思惟する者あらば慚死すべし實に玉體は千代田の宮居奥深く在しませども御心は民草の上を離れさせ玉はぬこと畏こしとも畏こし。

▲老按摩山階

明治の初年より一昨年八十餘歳にて歿するまで實に四十有餘年の間大奥に奉仕せる山階といふ老按摩ありき隔日に參殿して御寢前卅分間宛按摩を仕る例なりしがよし玉體に觸るとも賤しき按摩なれば直接に言上などすべき樣なく陛下も固より御言葉を賜ふこと無しされば按摩に厭かせ玉ふ時は御手もて御腰の邊をハタハタと敲かせ玉ふを、按摩は、止めよ退れよの御諚と心得たり。かくて山階老人は四十餘年の長日月の間玉體に近づき奉りながら遂に唯の一度も玉音を拜聽したること無かりきとぞ尚同人は老々老衰に及びて奉仕中にも遂コクリ〱心ならずも坐睡を催すことあり其外粗相を爲したることも度々なりしに曾に御尤めを蒙らぬのみか御暇も賜はらで老死するまで召使はせ玉ひけり陛下が常に老人を勞らせ給ふ御仁慈の例は此の外一々枚擧するに遑なしと、感涙にむせびつゝ語れるは此ち老いたる某省の一官吏なり。

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

▲敬神崇祖

陛下には、登極の初めより百事維新萬機神武御創業時の皇謨に則らせ給ひし御事と別ても皇祖皇宗を御尊崇在し億兆國民に對して敬神の範を垂れさせ給ふことは夙に國民の感激して措かざる處なるが維新以來

▲伊勢太廟

に對しては殊の外御嚴格に持てなさせ給ひ御恒例式年御遷宮御造營は申すまでもなく平時に於ても細密の叡慮を勞はせ給ふより是を舊幕政時代に比すれば神威彌高く國光發揚りたるの感あり振古未曾有の大變革たる明治廿三年の欽定憲法發布、日清日露の二外戰の如き苟くも國に大事あらんか必ず太廟及大和畝傍の神武御陵、山城月の輪の先帝御陵に奉告し給ひ　皇祖皇宗の御遺徳を奉體し給ふて内外凡百の御政務に當らせらるゝを常とせられ、帝國が空前の國運發展を見るに至りしをも凡て皇祖宗の御遺徳に歸し給ふの御謙徳は今更欽仰し奉るの外なし、されば陛下踐祚に及び應仁以來戰國數百年の間一度弛廢したる各種の御式典を興させ給ふの思召しあり即ち明治五年に至り神武天皇大和橿原に即位在したるの日を以て萬世無窮の紀元として一月一日の四方拜、十一月三日の天長節と共に

▲紀元節

を以て三大節と定めさせられ又新に春秋二季の皇靈祭を御治定あり一年十回の大祭日には未明より親しく賢所皇靈殿神殿に出御在していと嚴肅なる御親祭を行はせられ若し已み難き御事ある折は御名代を差遣はさせられ加之毎朝東雲の刻頃を以て御名代をして晨朝の御拜を勤めさせられ朝夕只管國榮え萬民安かれと祈らせ給ふ大御心の程こそ申すも畏かりけれ。

▲先帝最近御製

大行天皇の最近の御製なりとて漏れ承る數首を左に奉掲せむ。

世の人を敎ふることもかたからむ
身の行の正しからすは

事なしとゆるふ心はなかなかに
仇あるよりもあやふかりけり

思ふこと思ひ定めて後にこそ
人にもかくと言ふへかりけれ

事なくて治まる世にも民のため
思ふ心はやすむ時なし

むらきもの心のかきり服してん
わか思ふこと成るもならすも

崩御と外國

▲英國倫敦

三十一日タイムス社發

倫敦タイムスは第一の社説に於て述べて曰く今や日本は世界列國に欽仰せられたる皇帝を失へり英國が忠實に同盟を託せし大偉人を失へり實に帝は王政維新の大業を仕遂げたる明治最後の英雄なりき若し德川幕府を倒し日本の前途を開拓せし維新の大業に對し少數の元老諸輩に名譽の月桂冠を與ふるとせば此大業を統べ給ひたる少壯皇帝の功績に對しては更に大なる月桂冠を捧げざる可らず蓋し帝は元老よりも更に困難の衝に當らせ給ひた

ればなり帝は三百年間の久しき桃源夢暖かなる神仙的生活を脱し給ひ具さに艱苦を嘗させられたり雨霰の如き彈丸は京都の御座所を犯したり初めて外國の使節を引見せし際の如き狂へる武士は之を途に要撃せり而して帝も亦同じ危險を感ぜさせられたり然れども帝は毫も怯ませ給はざりき革命の犧牲となりし大名は數知れず而も日本が遂に内亂の慘より免るる迄には十年以上の日子を費したりき此内憂外患の時に當り帝は能く沈着事に處し國家を富嶽の安きに置けり勿論維新の大業に就ては岩倉三條の功與つて力あれども帝が其一國の元首としての資質即ち愼重にして正確なる辨別力、堅忍不拔の志等に因る處多し帝は部下の人物に對する其判斷力を誤りたる事なしといふ陛下に拜謁したる外國人の帝に對する印象を述るに當り皆帝を以て最も質素なる生活を好ませ給ひ其思想は率直にして而も其皇帝たる大任に對しては崇高なる理想を有せらるゝと做せり帝の統べ給る明治の時代は恐く日本の史上永久に特筆大書せらるべし帝の下に日本は數世紀間の桎梏を脱し世界强國の一となれり帝は日本が維新の大業より世界の强國となる迄の全道程に在りて能く其處置を誤らず斯て東洋史上永久に御名を殘させ給へり帝の御親政の下に日本は啻に内部の大改革を行ひたるのみならず支那を膺懲し又歐洲の一大强國にして又最も傲慢なる一國と戰ひ一時之を屈服せしめたり未來は知る可らざれど兎に角僅に半世紀に足らざる短時日の内に斯る大事業を成就する事は今後望む可からず而して此大事業は帝の下に行はれたるなり。

▲米國桑港

三十日桑港特派員發

桑港市長は三十日期來日本に弔意を表し先帝御大葬後迄半旗を掲ぐべく布告し市廳始め諸官衙は半旗を掲げ居れり桑港市參事會は決議して曰く、先帝程國民の敬慕を受けさせられたる主權者は他になく、陛下は聰明にして御德高かりき、四十五年間に於ける御偉業は世界歷史に其類なし、米國は親交あるを喜ぶ、加州は岩倉大使を歡迎せし以來親善なる關係を有し殊に桑港は震災の際御下賜金ありたる大御心を忘るゝ能はず又大博委員の派遣滯在中なる陛下に負ふ處多し、我等は此不幸に際し日本國民と其悲しみを等しうし新天皇陛下の御代が御繁榮あらん事を祈る云々。

卅日朝英字新聞は孰も多くの紙面を費し且社説を掲げ先帝の御叡德を稱せり。

▲米國紐育

三十一日紐育特派員發

陛下崩御の報三十日午後達せり各新聞は其以前電報にて時々刻々の御容體は勿論其他の通信に依りて事細かに報じつゝありしが三十日午後悲報を齎してより各新聞は更に詳しく御履歷又は東洋に於ける我國の發達を賞揚したり次で翌三十一日朝の各新聞は御臨終の有樣、皇太子殿下の神器奉受式、國民悲痛の樣及新皇帝の英明なる御素行を列記し或は新帝に拜謁せし人々の談話を掲げ或は古き歷史を引用し我國に關する知識發表の競爭なるかを想はしめたり中には皇孫の御寫眞迄掲げ一頁に餘れる記事を載せるあり又

アメリカンを除くの外の各紙は其論説欄に弔意を表し御懿德を述べ御知識を頌し今日日米兩國の新善は陛下の御稜威に依るもの多きを論じ實に稀に見る所の皇帝なりと云ふに一致せり輿論既に然り尠くとも當地米人が吾々と共に國民的悲しみを分つと云ふは啻に挨拶のみにあらざるが如し。

▲米國大統領

米國大統領は公電に接し直ちに新皇帝及皇太后に對し痛切なる哀悼の電報を發し國務卿ノックス氏は我外相に對し弔電を發せしが大統領タフト氏は陛下の崩御に付語りて曰く日本皇帝の崩御は予に異常の感動を與へたり予は數回陛下の賓客として拜謁の光榮を得たるが今更當時の高風を追懷し感に堪へず陛下は實に最も賢明なる主權者なりき陛下は將軍を廢し其活動的勢力を挽回せられてより以來其一代に於て日本帝國の驚くべき發展を致されたり陛下は自ら國事を總べ精勵無比の御方なりき陛下天賦の叡才は常に國民の意の在る所を察せられ之に適應す

る政治家・將軍等の適材を適所に任じて疑はず寛嚴宜しきを得、懲罰を明かにせられしかば信任されし人々は衷心より喜んで輔弼に努力したり是れ陛下が最も秀れたる材能にして一個人の力能く其國をして世界無比の發達進歩を致さしめ同時に陛下が熱心なる國民の指導者たりし所以なるべしと信ずと。

▲獨逸伯林

三十日伯林特約通信社發

獨逸自由黨諸新聞は日本に立憲政治を布き給へる前帝の公正無私なる政策を賞讃し其立憲國君主の職分を果させ給へる點は模範的と言ふ可きものなるを說き陛下が天位を皇太子に讓り給ふ今日の日本は最も有望なるものあり將來發展の見込も亦大なりと述べたり。

▲清國香港

三十一日香港特派員發

陛下崩御の報に接したる在留邦人は恐懼謹愼し居れり香港大守・英國官民、列國領事等我總領事を訪問し弔辭を述ぶる

者多し各英字新聞は長文の社說を載せ陛下の御聖德を頌し陛下は世界歷史上の大皇帝にして且英雄の御一人なりと讃美したり。

▲露國浦鹽

三十一日浦潮特派員發

聖上崩御の報に接し在留民一同休業し謹んで弔意を表し民團より宮內大臣宛弔電を發せり各國領事館は半旗を掲げ各國領事及び露國官民は孰も我總領事館に來りて弔辭を述べ各新聞は陛下の聖德を頌し深甚なる弔意を表せり。

▲清國北京

三十一日北京特派員發

先帝賓天の飛報に接したる當地各新聞は孰も哀悼の辭を載せ弔意を表せり就中英字新聞北京日報は全紙を黑枠となし社說に於て先帝の御高德を列叙し他に比類なき光輝ある治世なりしを頌し國民愛國の念強きは實に先帝御高德の然らしむる所なりと論じ終りに支那と最も親交ある隣邦の一大不幸に對し支那國民は最も厚

く最も深き同情を表するものなりと結べり三十日我公使館は弔問者の爲に多忙を極めしが午後五時御眞影遙拜式を行ひ三十一日は哀悼の情切なる居留民一同に御眞影參拜を許し敬弔の意を表せり。

▲清國上海

獨紙東亞ロイドは明治年間に於ける記憶す可き美績を列擧して之を稱贊し其功勞は先帝が元老と共に之を分ち給ふ可き處なりと述べ且說いて曰く先帝は聖德高く在せしが能く政權を擧げて之を賢良の臣に委ね危ぶみ給はず心を學校教育に寄せ給ひ且古來の國民性の涵養に力め歌道を奬勵し然も近世の物質主義を容れて折衷中正を失はしめ給はざりき新天皇陛下は身體稍强健に亘らせ給はざれども叡明或は父皇をも凌がせ給ふ御人格親しむ可く民心深く之に歸す國內各地を巡らせ給ひ且近世的教育を受けさせ給へり思ふに天位の變動は直接間接に日本が全然新發展の運びに移るの時期と其機を同うするものなるを覺ゆと

▲清國上海

上海マーキュリーは社說に於て曰く日本天皇陛下の崩御は世界に於ける重大事件なり吾人は第一に皇族に對して其首長の逝せ給ひしを痛悼し第二に一般日本國民に對し弔意を表せざるを得ず顧みるに先帝即位の初に當つてや唯近侍の間に知られ給へるのみなりしが崩御の時には實に大英皇帝の同盟者たり又露國皇帝の親友たり世界到る處の國王の孰れにも劣らせ給はざりき寶齡正に六十年、其間に於て日本は中世紀的生活より脫出して世界强國の班に列するに至れり是孰れの地に於ても未だ曾つて見ざる所たり又孰れの人民も斯くの如く俄かに大成功を示せるものあらざるなりと同新聞は猶八段に亘れる特別記事を掲載し政府が教育、法律等に力を致して未曾の變動を見たることを說き治外法權撤廢、新條約締結、海陸軍の發達、財政問題其他日本の進步を紹介せり（以上朝日新聞による）

▲列國の宮中喪

締盟列國中　大行天皇崩御に關し宮中喪を發せられたる各帝室並に服喪日數は左の如し此中英、獨、西の三國は豫て取極められたる相互の協定に基くものにして其他の諸國は別に協定とてはなきも御親交の御間柄とて曩に當該帝室の御不幸に對し我宮中に於て行はせられたる宮中喪の慣例に準じ仰出されたるものなるやに承はる

	服喪日數
大不列顛國	二十一日
露西亞國	同　二十一日
西班牙國	同　二十一日
伊太利國	同　二十一日
和蘭國	同　十九日
墺洪國	同　十九日
獨逸國	同　七日

●拜訣式と御納棺式

▲先帝の御尊骸　は三十日早天殯殿に於て淸の御式を行はせられ引續き高田中川兩人の謹製せし御船は午後三時宮中の衛生試驗所にて鄭重なる消毒を行ひ、長崎調度頭、齋藤主事其の他の技師等細密の點檢を爲し、四時より御尊骸には皇太后陛下の親しき御指圖に依り、多年大奥に奉仕し、且陛下御重患に罹らせられ

し以來、晝夜御看護の御用を拜せし高倉柳原兩典侍を始め、其他の女官並に澤慈光寺兩次侍從、石山勤務坊城、穗積、久世、藤井各侍從職出仕、殯殿に伺候し白羽二重の清き御衣を奉り、御枕を供し、三襲の御褥を敷き詰め、丹其他の御香具數種と共に、御豫定の御品を納め、龍顏のみを拜し得る樣に御尊骸を御寢棺に納め奉れり。

▲御靈柩 は三重の總檜材にて御材料は帝室林野管理局所屬深川貯材所に貯藏せし木曾御料林の良材を用ひさせられ、御肌附となるべき御船の厚さは七分板に精製し奉り、中棺は二寸、外棺は三寸の厚みに御仕上申され、外棺、中棺、御船の隙にはセメントを詰込まれ總體の御長さ一丈御高さ三尺四寸御幅四尺、御棺臺の厚さ五寸にて其上に白の薄緣を敷かせられ、御靈柩は其御臺と共に白木の呉床の上に安置し、白羽二重を以て覆ひ奉りたるやに拜承せり而して御靈柩の前には幅一尺五寸四方、高さ一尺五寸四方位の根附の御眞榊一對と御忌火、御神饌、御幣帛を供進し五時より七時迄の間に於て

▲御永訣の御式 ありたるが此尊き御式に拜列するを得たるは申上ぐる迄もなく天皇皇后兩陛下、皇太后陛下、皇儲殿下、二皇子殿下、常宮、泰宮、富美宮、周宮各御直宮殿下、伏見、閑院、同妃、東伏見、同妃、若伏見、同妃、久邇祭主、梨本、同妃、朝香、北白川、東久邇、竹田、華頂、山階各宮殿下を始め奉り、西園寺首相以下各大臣、山縣議長以下顧問官、井上、松方、各元老、寺内總督、德大寺侍從長、渡邊宮相、各大臣侍遇、香川、一條兩大夫、波多野侍從長、佐久間總督、福島都督、元田總裁、中村、村木、兩武官長、高倉、柳原兩典侍以下各高等女官、河村次官、岡侍醫頭、侍醫、侍從武官、宮内省各部長等にて

此ぞ未來永劫の御訣れを申上ぐる事なれば何れも袖を濕して正しく龍顏を拜し上ぐる事を得たる人々は少かりしやに承はる。斯て御忌火の影暗き中に、七時を過ぐること十分にして御船の御蓋を閉ぢられ何れも歔欷嗚咽の中に御納棺を終らせられたり。右にて御尊骸は御大喪期日迄豐明殿なる殯殿に奉安され、皇太后陛下各内親王、皇族殿下を始め奉り、直近奉仕者並に侍從、女官等の人々晝夜御更代にて、御棺側に御生前の如く奉仕するやに拜承せり。

▲拜訣式の御模樣

大隈伯爵談話

▲此御式 は左程御複雜なものでない、先づ袴を脱いで、侍從職等の詰めて居る室の傍に溜めの御水が出て居るから、其處で手を洗ひ口を嗽ぎそれから長い御廊下を經て 先皇御遺骸の御座します常の御室に進む、御二室あつて手前のものは約五間四方もあらうか、此處で右に迂回して正面の御室の敷居際迄進む御襖が左右に開かれて居る、其御室こそは先皇御臨終の御室で御遺骸の現に御座ます處である、前のものよりも又御廣い、其處から跪き膝行して進むと白いものに掩はれて聖體は南御枕の東御向き有りし

▲御寢の儘の御姿 を以て御褥の上に御横臥まします、其處で銘々恭しく拜別して其儘後退りに膝行し、前の御敷居際迄戻つてそれから前とは道を換へ左手に迂回して罷り下る、皇太后、今上、皇后三陛下皇太子殿下は申すも畏し、先づ各宮樣方の御參拜があつて、それから各元帥、大勳位、大臣、それから我輩共、續いては各親任官といふ順序で銘銘參拜したいとも畏き事乍ら 先皇には玉體に醫師よりして藥品の御注射等を參らせあるものから龍顏まざ／＼と生きませるを拜し參ゐらするに異ならず今更乍ら得も言はぬ萬感の胸に迫るに堪へなかつた

◎崩御前の二重橋

▲群集！大群集！

△二十九日深夜

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

i — 878

二重橋前に於ける聖上陛下御惱快癒祈願者の群が、晝となく夜となく、東京市内、又は近きは接近の各町村より、遠きは千葉、神奈川、栃木、群馬、茨城山梨の各縣より群集して、各自が信ずる神佛の前に祈願を籠めて居る國民至誠の**▲宗教的發露**に就ては、連日の紙上に詳報せる通りなるが、殊に御病勢大に増進して危險に陷り給ひたりとの發表ありたる二十九日夜は、日未だ全く暮ざる頃より二重橋前を目差して參集する者引も切らず、試みに各方面の電車を視察せるに新宿青山よりせる築地兩國行、三田を發せる神田橋方面行、札の辻を發せる櫻田門行、築地を經ての青山新宿行等は午後九時を過ぐる頃まで何れも滿員續きにして、此れ等の電車が宮城を中心として和田倉門より馬場先門、日比谷、櫻田門等の停留場に吐き出せる老若男女は實に前日來に**▲數倍**せるの夥しき數にして、和田倉門より坂下門へ押寄する者や、馬場先門より二重橋に押掛ける者、或は櫻田門よりし凱旋道路よりする者續々として絶えず、日比谷署は此日署員總出の上に警視廳の騎馬巡査、麴町署其の他の應援を受け且憲兵隊よりは多數の憲兵出張して手に手に提灯を打ち振りつゝ群集を制止せしが、陛下の御上を案じ煩ひて一日も早く御惱の御平癒遊ばされん事を之れ念とせる忠直なる人々は來往織るが如き自動車、馬車、人力車の**▲塵埃渦巻き**上りて頭より足より糠の如く浴るをも意とせず、二重橋前より坂下門へ掛けて一帶の小砂利の上は車馬の來往不自由なる程の大群集を示すに至れり、折柄舊暦十七夜の月光晝の如く淡く、大内山の常磐樹色深うして二重橋の電燈燦き渡る所、小砂利の上に打伏して御平癒を念誦する群集は此處に一團彼處に一團、熱き涙を垂れ熱き汗を流して吾を忘れつゝ且祈り且誦する樣、眞に至誠の他に何ものも無き國民の赤心を知るに足る、斯る境にして斯る情景を目撃したらんには何人と雖も一種謂ひ知れぬ**▲敬虔の念に**打たるべく、最初は唯この群集を見んとして來り唯納涼がてらに來りたる者も、遂には莊嚴なる夜景に打たれ、忠烈なる群集の眞面目に同化して、行く人一語なく歸る者一咳なき森嚴なる光景を呈するに至れり、斯る大群集は喧囂し紛擾するが例の如くなれども、宮城前の群集は心に無限の憂悲あればにや聲高に話す者さへ稀にして、唯參内し退出する馬車自動車の中を窺き見ては何事か私語きつゝ不安氣に徘徊する樣、國王病篤くましませる同夜にして殊に**▲感激の深甚**なるもののあるを覺えしむ、二重橋の上、右手寄りの松樹の間にて右に左に打振らるる提灯の光を仰ぎ見つゝ、群集は唯何となく涙催されて默祈し瞑想し念誦し合掌し、或は聲高に泣き叫び或は忍び音に嗚咽するなり、警護の警官も言葉靜かに人々を制すれども、言葉なき男女の群は潮の如く寄せては潮く如く引きて、夜漸く更んとすれども其の數更に減ぜず、あはれ神明も見そなはせ大君の御上を氣遣ひ奉る民草の心は一つにして且大なり。

◉宮城より下せる夜半の東京

△三十日午前零時

午下、一たびは御呼吸絶えさせ玉ひてしを、人工呼吸注射など醫術の限を盡して再び玉の緒の繫がりたまへるなど、大内の裡だにも噂取り／＼幾たび膽を消したる今日の日も何時しか暮れつ、初更を過ぎ二更と闌けたれど、天地風死して健かなる身すらに頭ぞ重き**▲東御車寄**は燦として輝く電燈の下、二個の大卓子を駢べ右には「聖上」左には「皇后宮」と札立てられたり、峩冠繡服絡繹として出つ入りつ件の卓子に備へたる名簿に、おのも／＼自筆に官氏名を署して奉伺の微衷を留め、何伯爵に隣りて何驛長、某大將に次ぎて某警視の列れる、位階官階の高下こそあれ、おしなべて打わなゝける筆跡に、同じ心の恐しこみを見せたり。

▲御垣の上　常磐の松の下陰に起ては慘ましき都の夜半なるかな、御濠の外は二重橋前の廣場なり幾萬人が集へるらん影はさやかに見えざれど、萬點の灯は闇を照して水に搖らめけり、祈るか泣くかはた愬ふるか、岩窟を潜る風の如く、砂濱に淘るゝ浪に似たるぞ是れ我が六千萬人を代表する絶大悲痛なるうめきなりける。遠く眼を放てば更けわたる夜の八百八街沈々として、空は稍雨を催し且去り且來る雲のたゞよひに見え隱れなる月の光も坐ろに愁ひを惹く、幾歳の宮仕へに斯る夜の斯る眺めは今宵を始めにて再び又有るまじき終なるべし（某宮内官談以上朝日）

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

樓主の悔改談

『聖書の研究』主筆 内村鑑三氏談

▲廓清會の運動——即ち公娼問題に就ては、私は子供の時から注目してをつて、明治十七年に亞米利加に行つた目的の一つも、實は救濟事業の研究にあつた。而して此目的につき始めから終り迄助けて呉れたのが、先日死なれたミセス、ハリスで私は同夫人に就て近頃愉快な話を聞いた事がある。といふのは青山學院の實業部は私の亞米利加行によつて出來たといふ事で、私が當時ミセス、ハリスに手紙を送つて、醜業婦の生ずるのは實業教育の缺乏からで、醜業婦を廢めさせるには是非共貧民女子の實業教育を盛んならしめなければならぬ。といふ事を論いた事があつて、其手紙が因となり、ミセス、ハリスは富豪を說き廻つて五千弗の寄附を得、同女學院實業部を建つるに至つたのだといふ事を、私は先達て始めて聞かされた。

這麼次第で此問題は私の腦裡に深く印せられておつて、常に何とかしたいと考へては度々慨歎して居つたのであるが、社會上の事は到底私の手に了へないといふ事を悟るに及んで、純粹の宗教に這入つて、十二年の間專心一意聖書の研究に從事し、之に現はれたる福音を說く事を天職としてゐたのである。然るに其うち色々の問題が起り、いやでも實際問題に接しなければならぬやうになつた。

私は聖書の研究によつて、家族制度の缺點——といふ様な口にいふ事の出來ない六ケ敷い問題が、國力の大分を減じてゐるといふ事を發見した。忠孝道德が盛んで愛國心が強いといふ平民の間に這入つて見て、資產ある家庭と非常な隔絕があり、日本の商家と農民の理想とに非常な逕庭のある事も知つた。這麼事から止むを得ず實際問題と觸れるやうになり廓清會の廢娼問題とも接觸するに至つた。そして青年時代の目的の一部を達する様な事件に遭遇して、非常な愉快を感じてゐるのである。

▲此實例といふのは區域は狹いが根本的に問題を解釋する爲の適例であると思ふから御參考迄二三提供しやうと思ふ。

色々の人が私の雜誌『聖書の研究』を讀んでゐる。信者もあれば未信者もあり方方に行き渡つて行く中には實に意外な方面に實を結んでゐるのに驚く事が度々ある。中には娼妓の手に迄這入つてゐる生きた實例もあるが、近來最も感動した二つの事實がある。一は既に御承知の方があるかも知れぬから或は繰返しになるかも知れないけれども、一は新らしい事實で、全く世間に知れてゐない。

水戸に樫村小三郎(假名)といふ人がある。此人は『聖書の研究』發刊當初からの讀者なので、一面識もないに關らずいつ

か姓名だけは覺えてゐた。或時突然此人が尋ねて來た。年は四十四五であらう、今は雜貨商をしてゐるが、明治三十年以前、先祖代々の貸座敷業をしてゐたといふので、二時間餘り之に就て話をしたのは恁うである。

〇〇の海岸に〇〇といふ處があつて、廓が六軒ある。氏は其内の一樓主であつた。元來此地に遊廓が置かれた理由に就ても一場の奇怪なる話柄がある。何年前か知らないが、何でも此處に本願寺の寺院を建てるといふ事になつたもの〻、金がなくつて困つてゐた。するとそれなら廓を設て〻本願寺を維持しやうといふ事になつて、遊廓が設置せられ、今日も尚貸座敷から何程づ〻か維持費として割合に多い金が本願寺に行くのである。面白い事で、寺を建てるのに廓を設け、其貸座敷によつて其寺院が維持せられるといふ、まことに一驚を吃せざるを得ない。

斯うした土地柄であるから、自然基督敎の運動は彼等に取つて大敵の出現である。辯士を雇ふやら何やら大騒ぎをして頻りに基督敎反對運動をやつた。かういふ地方で殊には貸座敷營業をやつてゐる氏は、元某藩より入來りし養子で、多少本も讀めいくらか武士氣質もあつたものだから、基督敎は異端である。之を打ち斥けねばならぬといふ佛敎の運動を助けた急先鋒であつた。

丁度此頃身體の加減が惡くて上州磯部に湯治に行つた。高崎に着いて、湯治をして居る間に本を讀んで基督敎攻擊の材料を作らうといふ考から、新約聖書を買つた。そして入湯中暇に任せて熱心に聖書を讀んで見た。然るに熟く讀めば讀む程當初豫期した思想とは全く正反對の方に行つてしまつたのである。茲に於て氏は飜然として基督敎が惡いんではない、己が惡いんだといふ事を悟つた。そしてこれは一日も早く從來の稼業を廢業しなければならぬといふ堅い決心が此時生じた。恁う氣がついて來て見ると、ぼんやり湯に這入つてゐるのがもどかしくなつた。家に歸り着くのも待ち遠しい程で、扨愈々自分の家の敷居を跨いで見ると、家には養父は既に死んだが養母がある。妻は家つきの娘である。自分は養子の身分である。そして此先祖代々の事業を廢めやうといふのだから大なる反對がある事は極めて明白である。氏は茲に愈々覺悟の臍を固めて、先づ妻に此事を話したすると意外にも妻は直に贊成して吳た。で氏は大に喜んで更に母を說く事とした妻は意外に容易く承知して吳れたものの母こそは中々聽入れないだらうと思つて居たが、全く神の攝理といふのであらうか、母もすぐ承知して吳れた。そこで之を世間に發表すると、意想外に猛烈な反對が起つた。殊に同業者から甚しく反對する。彼等は、一軒廢めると他の五軒がやり切れぬ。茶屋も立行かぬといふので、色々意志を飜へさせようと試みたが、氏の決心は牢として拔くべくもなかつた。反對や迫害の最も激しい時など、氏等夫妻は各ピストルを一挺づ〻懷にして町に買物に出て行た位で、恁うした生活が二年間に亘つて續けられた。併し氏が廢業の意志は、彼等の樣々な迫害や強壓によつて愈々堅くせらる〻とも、寸毫も動す事は出來なかつた。

遂に同業者も我を折つて、氏の廢業を

承認する様になつたが、其代り娼妓を茲で解放すると我々の娼妓が騷ぎ出すから一人殘らず我々の方に賣渡して貰ひたいさうすればお前の方も得だし自分達にとつても都合がいゝ、一擧兩得といふものだといふ。併し乍ら氏が廢業の決心を固むるに至つた第一の原因は、娼妓を解放して正業に就かしむるにあつた位であるから、元より受付くべき事でない、言下に拒絶してしまつた。

そこで彼等同業者は、そんならせめて屋號を賣つて呉れと云ひ出した。けれども屋號を賣るのは先祖の耻を殘す譯であるから之を容れてやる譯には行かない。斷然峻拒して了つた。

如斯氏は一歩も讓らず自分の信ずる處に萬艱を排して邁進したが、殘念な事には彼等同業者は、表面から氏に交渉するの望みなきを察し、氏の家を賣拂ふ時巧みに堅氣な人の手を借りて買受け、氏の手が切れるとすぐ更に買取つて、屋號こそ異り人こそ變つたれ、取り壞す約束で賣つた家が其儘女郎屋である事は、氏の今も遺憾としてゐる處である。併し其後二三軒女郎屋は殖えてゐるから、假令自分の家を潰したにしても數は減すべき運命でなかつたのだから、まあ止むを得ないといふべきであらう。

▲

抱えの女郎は二十人あつた。之を一人殘らずそれ〳〵世話した。西洋では出來ない事であるが、日本では出來る事で、一人は醫師の妻となつて立派に暮してゐる。或一人の如きは魚賣りとなり眞黑になつて魚を賣つて歩いてゐる。一人は再び醜業に返つたが、殘りの十九人といふものは悉く正業に就て、正業を樂しみ、氏を親として慕つてゐる。氏も亦十九人の子供を有つてゐるといふ考へで、全く兩者の間には親子の樣な美はしい關係が成立つてゐるのである。

樫村氏が自分を訪ねて來た時は、大分病身の樣に瘦せ衰へてゐた。氏は幾年もかゝつて此廢業のためにあらん限りの精力を消耗し盡したので、もう自分を支へて行く丈の力の外はないといふ。私は君は人の出來ない大事業を成し遂げたのであるからもうそれ丈で結構である。君は一生の大事業を既に了へたのであると言ふて氏を慰めて歸した。

此事實は氏自身が大阪に行つても話した、東京でも一度話した事があると云ふ。實に社會の壓迫で廢めたのではない。或は諸君の樣な人が說破した爲でもない。自分自ら高崎で買つた一冊の新約聖書によつて此大事業を行つたのである。

日本に於て貸座敷を一軒止めるといふ事は大なる事業である。欅の木を一本拔くと同じく根が方々に這入つてゐるから棒杭を拔くやうな譯には行かない。近所近邊が大動搖をするのである。樫村氏の此事實の如きは全く理想的な完全な廢業で、私の知つてゐる範圍では全く比類なき廢業であると思ふ。

基督敎の中には進歩派もあれば舊派もあり、色々敎派もあるけれども、此聖書が人間に及ぼす感化の卓絕なる力は、何派の宣敎師も、又如何なる雄辯家も到底企て及ぶ處ではない、といふ事を痛切に感じたのである。

▲

それからもう一つの事實は、今のやう

に社會的にインテレスチングではないが、其結果がもつとローマンチックで、我々の感情に更に深く訴へるものがある。

東北線に乗ると〇〇といふステーションがある。此地は東北の一小都會に過ぎないが、日本に二人の大臣を出したといふので誇つてゐる。此停車場を下りると田村屋といふ綺麗な旅館がある主人公は田村松野(假名)といつて女、年は五十五か六、界隈切つての有名な娼婦で、今日迄幾人の男が引掛つたか知れない。松野の生涯を書いたら、飛つ沫が驚くべき方面に及び、殆んどどんな處迄行くか分らぬといふ事で、五十有余の今も猶何處か昔の俤が偲ばれぬでもない。

身分を洗つて見ると姉妹が揃ひも揃つた美人、松野を頭に三人の妹があつた、一家擧つてハーロット關係者といふ有様である從つて遺傳とか周圍とかいふ方からいへば一つも取柄のないばかりか、穢れ果てた搖籃に人となり、汚れ切つた空氣が彼等を蔽ひ包んで、道德だとか仁義だとかいふものゝ治外法權であるといつたやうな氛圍氣中に生活してゐたのであるから、其兄弟姉妹の話だけでも、それ〲優に一篇の物語に値するものである。

一世の娼婦松野は、如斯にして人となり己れに近づく總ての男子を飜弄して、十七年前、生れもつかぬ盲目となつてしまつた。

> 馬太傳二十一章三十一節
> イエス彼等に曰ひけるは誠に爾等に告げん稅吏および娼妓は爾曹より先に神の國に入るべし

で彼は自分で自分を見る事が出來ないけれども、世の中の人達が見たならば、まあ怎麽にか醜い事であらう、一層の事死んで了ひたいが、唯一つ此世に生き永らへて居たいと思ふのは、煙草を呑む事之れであつて、外は皆死にたいと思ふておつた。

▲妹の亭主は花房(假名)といふ鳶の親方で、子供がない處から、鈴木幸太郎(假名)といふのを養子にした。然るに此養子の幸太郎といふのが一寸とした事から仕合せに基督に松野を導いたのである。元より〇〇に行つてゐる〇〇君も與つて力があるが、要するに此幸太郎がゐなかつたら到底彼女は信者にならなかつたらふと思ふ幸太郎といふのは幸ひ既に信者であつたものだから、松野と顏を合する度に少しづゝ福音を傳へてをつた。

或時此盲目の婆さんが家人に向つて突然甥の幸太郎の處へ伴れて行けと云ひ出した。其時家の者が遣らなかつたので、そつと他の一人の甥を引張つて行つて汽車に乘せて貰ひ幸太郎の家に行つた。そして幸太郎に逢つていふのには、自分は唯一つの用事があつて來た。それは神樣の事であるといふ。幸太郎は何かと思つてゐた處神樣の事で態々來たといふので喜んで色々話して聞かした。松野は靜に

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

頷き頷き考へ込んでゐたが、やがて己れが考へてゐた通りだ、と非常に喜んで、尙一人で硏究したいといふので、それならばと點字の四福音を取寄せ、先づいろはから覺えてとう〳〵聖書を讀む樣になりそれからといふものは一生懸命硏究して遂には全く諳んじてしまつた。今日では聖書の學問こそ私の方が上だけれども眞實に神樣を知つてゐる點に於ては私以上で、此頃は愉快で堪らぬといつてゐる世の中の人達には夜と晝があるけれども自分に取つては眠つてゐない時はいつでも晝だから、眞夜中であつても、彼處を讀みたい、彼の篇の硏究が足りないと思ふと、起き上つて聖書を讀むといふ風であるから、どういふ事は何章の何節といふ事迄ちやんと覺えてしまつた。

今其一例を擧げて見ると、去年の十一月さる信者が死んで葬式があつた。私は恰度其席に列したが、迂濶して聖書索引を持つて來なかつた事を發見した。私には之れがなくては言葉は知つてゐても何章の何節だか薩張り分らぬ。もう間もなく式が始まるといふのにどうしても思ひ出せぬ。人に聞いてみても分らぬ。困り果てゝ氣を揉んでおる時ふと氣づいたのは松野の事で、彼に尋ねて見やうと思つて聞いて見ると、一寸お待ちなさい、えゝとそれは馬太傳の六章十一節でしやうといふ。そこで開いて見ると成程それに相違ない、一座の人々其强記に驚いた事があつた。

▲

恁ういふ風に非常な注意を以て聖書に讀み耽つてゐながら、松野の家は依然として貸座敷業を營んでゐる。松野がほんとに悔改めたのなら廢業すべき筈だ、それに何故いつ迄も廢業しないかといふと家には八人の家族がある。多勢の抱えがある。一々之等を處置しなければならぬのだからさう容易には廢められないのである。私共の友人は非常に氣にして金を募つてやらうかと思つた。といつて東京で金を作つて持つて行くのも面白くないから默つて廢業の知らせを二年間待つた

併し女郞屋で聖書が繙かれ、讃美歌を歌ふ聲が聞えるといふ事は實に珍らしい現象で、二階では如何なる醜事が行はれてゐるか知らないが、下は立派なクリスチヤンの家庭で、實に奇妙な對照が現せられておつた。私は此一家の人々と寫眞を撮つた事がある。私は生れて始めて娼妓と一緒に寫眞を撮つたのであるか、併し私は若し彼等が愈々廢業しないのなら彼等の信仰は全く虛僞で、一の芝居だらうと思つてゐた。

處が去年の十二月愈々廢めるといふ通知があつた。そして旅人宿を開業したといふ一週間目頃、私は喜んで行つて見たそして此生れ變つた人々の爲に路加傳十五章の話をして歸つて來たが、愈々廢業するといふ動機となつたのは何であるかといふと、去年の雜誌(聖書の硏究)に忍耐といふ事に就て書いた中に、忍耐といふのは唯じつと我慢をして耐へてゐるといふ事ではない。左顧右眄躊躇逡巡する事なく、自分の信念によつて猛然驀地に突き進む事である。障害に打克つて斷然敢行する謂である。といつた樣な事を書いておいた其記事が、圖らずも松野に暗示を與へる事となつた。松野は妹が讀んで聞かせた時『何も一度、も一度』と二

三回繰返して讀ませた上、よろしい、今日限り廢める。自分は神樣が或時期の來る迄待つてゐろといふ事だと思つて督つてゐたのだか、なる程右も左も顧みず進めといふ事であるのなら、もう今日限り止すといふので、斷然廢業する事となつたのださうである。

宿屋は三人の姉妹で持つてゐるが、此間鈴木幸太郎が來て、立行く樣になつたから安心して呉れといつてゐた。

是で私の二年間の心配はとれた。併し多年の商賣であつたのだから、復元に返りはしないかとそれ斗り氣遣つてゐる。

▲

然るに玆に是等の女が悔改めたに就て意外な方面に迫害が表はれた。といふのは地方の政治家とか有力者とか云つた樣な連中が、彼等に我々の内幕を素つ破拔かれた日には大變だといふので、元の穴へ返らせやうとしてゐる。其壓迫の例を擧ぐれば這麼事もあつた。松野の家には何程かの借金があつた。去年の十二月で期限が切れて、從來通り利子を持つて行て證文を書き換へて貰ふつもりでゐた處二十九日か三十日になつて突然是非返して呉れ、返す事が出來ないといふなら執達吏を寄越すがどうだといふ手嚴しい談判。僅か二三日前になつてだしぬけに寢耳に水の督促ではあるし、何と工面のしやうもなく困じ果てた。而も怎ういふ理由で今度に限つて突然這麼無理な催促をするのかも薩張り分らず、甥の幸太郎の處へやつて來て、一緒に禱をしやう、心が亂れてゐるからといふ。聞けば明日で期限が切れる、神樣が何とか助けて下さる事と信じてゐるがと落ついてゐる。幸幸太郎が金を他から借りて、家に其事を電報で知らして、一晩安心して泊つて歸つた事もあつた。

這麼風に或は迫害を加へ或は好餌を以て誘ひ、どうにかして再び元の穴へ引込まうとしてゐるから、諸君は之を保護し終り迄祈禱さする樣に願ひたい。

松野は娼妓等の前身であるに關らず中々常識が發達してゐて、見識の高い女である。よく田舍の老婆に見るやうな、お有難い一方の信じ方ではない。彼女の家では旅籠屋をしてゐながら酒を出さない

併し旅の疲れを安むる爲めとしてなら少しはやる。といつた樣な有樣である。或時は驛夫連が耶蘇が店を出したから冷かして行かうではないかと、松野の店にやつて來て酒を出せといふ。何と云つても出さぬ、亂暴しても出さないで、却つて彼等の爲めに同情の禱を捧げた事もあつたといふ。昔憎くて憎くて堪らなかつた妹に對しても、今では少しも怨まず可哀想だと思つてゐる。それに引かへ妹は反比例に段々墮落して却つて妹の方で松野を怨んでゐる。

概略之れ位に止めておくが、福音の著しい例が充分此女の上に顯はれてゐると思ふ。周圍の感化遺傳境遇といつた樣な上から見ると、一として取るべきものない間から、今では東京邊の貴婦人達よりも遙に見識の高い立派な婦人が出來たのである。誰の眼にも到底一代の娼婦松野の後身とは受取れない立派な人格をそなへた人間が出來上つたのである。

（廓清會第二回研究會にて）

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

藝妓問題

日本禁酒同盟會長　安藤太郎氏談

○申す迄もなく娼妓といふものは都市の或一廓に押込められて、これを弄ぶものと云へどもなほその不潔のものたる事を承知して居る。然るに藝妓となると、いづれも市内般賑の場所に居を構へて居て一般にあまり穢いものとも感じて居ないらしい。そして娼妓を相手にするのを紳士の體面に關するとして卑しみ、憚るの徒も、また藝妓を揚げて一夕の宴を張るは素より、寧ろこれと關係するのを誇とするやの傾向さへあるのである。

而して藝者買ひをするものは多く金のある中流以上のものであるから、藝妓は多く身分のいゝ物質上より云ふ良家の男子を相手にして居る。且又貴族富豪の園遊會、外國貴賓の招待會、その他公開の場所に臆面もなく出入して居る。この點から見て、娼妓などの窮屈な格子の内に押こめられてる悲慘な境遇に較べると、はるかに自由で、幸福で上等なるものゝやうに見えるが、それは只表面のみである。

○實際に於ては彼等の境遇にも涙がある藝者屋の女將なるものは卽ち藝妓を自分の養女として入籍する。養女と云ふ、それが表面の體裁のいゝだけで、實は娼妓の身賣も同樣のもの、場合に依つては戶籍で以てかたく結びつけられて居るだけ娼妓より以上の束縛を受けねばならぬ事がある。

娼妓が樓主の奴隸であるが如く、藝妓はまた抱主の奴隸だと云つても過言ではなからう。現に抱主卽ち養母から醜業を强ひられて拒むによしなく、遂には純然たる醜業婦となつてしまう例はいくらもある。恐らく彼等の大部分はこれではあるまいか。

斯くの如くにして、現今の藝妓なるものは單に酒席に侍して興を助けると云ふ遊藝一方の興の藝者でなく、事實娼妓の役までも兼ねて居るのである。世間はまたそれを公然の秘密として許して居る。

○一體藝者と云ふものは、娼妓などゝ違つて、賣り物買ひ物と店を張つて居ないから、これを買ふにも餘程六ケしそうに思はれるが、何、彼等も娼妓と同じで、金さへあれば、いつでも得られる。そしてその相手が多く中流以上のものだけに、中以上の家庭に及ぼす害毒は實に甚しい

エリオット博士は、日本の娼妓の檢黴をすら不完全だと云はれたが、藝者にはそれすらないのを以て見ても、如何に恐るべきかゞ想像されやう。それ以外に、良家の風俗に及ぼす惡影響は或意味に於て娼妓以上である。

○日本の官憲では、外國の賓客があると直に藝者の手踊を御馳走する、藝者を接待に出す。外人はそれを喜んだやうにし

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

て藝者ガールとか何とか云つて拍手をして居るが、これ實は主人側に對する所謂御挨拶で、後を向いては苦い顔をして居る。

私など外國人に逢つて、今日の招待會には如何ですと云つて見ると、妻帯者の外人は、よくこんな事を云ふ。

『私は見合はせませう。なぜなら今日はキット藝者が出るでせう。あんな醜業婦を出されるのは、私の妻に對する侮辱ですから』と、併しこの眞の外人の語は、肝腎の主人側にある官憲の耳には這入らないのである。なぜなら今云ふ通り面と向つては御挨拶を云つておかねばならぬから苦笑しつゝ賞めてるやうなもので、これを聞いた官憲は直に、外國人は日本の藝者を大變に珍らしがる、何よりの御馳走だと、早合點して得意になつて居る。

尤も若い放縦な水兵などは、眞から珍らしがりもしやうし、また怪しからぬところへの案内をさへ喜ぶものもあらうがそれは紳士の事でない。

この事については私も尾崎さんが市長の時云つた事があつたが、あの人なども成程それは可くない、好くない事は知つて居るが、どうも日本の貴婦人連が藝者の代りをしてくれないから困る。外國では貴婦人自ら立働いて日本の藝者の役をつとめてくれるから、特別にその必要がないのであるが、日本の婦人はどうもチツとして控へ目にしてる風があるので云々とこぼして居られた。

然るに外國人などにきくと、その靜かに控へて居て下さるのが却つて吾々を眞面目に歡迎して下さる誠意が見える有がたいと云ふのである。

○

いつぞや西大將の子息が藝者に關係してそれから色々な事情が纏れ、遂に裁判沙汰となつた時判事の判決文に――醜業婦に關連し云々と云ふ句があつた。判事已に藝妓の醜業婦たるを認めて居るのである。

斯くの如く内外人一般に醜業婦と認めて居る藝妓が、市内殷賑の場所に居を構へて、天下憚るところなき擧動をして居るのは甚だ意を得ない事だと思ふ。殊に赤坂の溜池などは皇族殿下の御邸も、いくらもあり、よく御微行で御散歩あらせらるゝと聞くが、そんなところに待合藝者屋を、ズット列べておくのは恐れ多い事ではあるまいか。

○

私は持論として、事實に於て娼妓同樣な、そして中以上の家庭に害毒を流す事の甚しき今日の藝妓をも廢したいと云ふ希望である。

而して自ら好んで藝者をするものは別として、自己の意志でなく、間違つた道德の犧牲となり、父母のため、兄弟のため身を沈めるとか、親の强慾のために、血を吐く思ひの涙を呑んで醜業を強ひられつゝある、娼妓同然の彼等は、また娼妓同然、これを救濟する必要があらう。實に藝者屋の抱主なるものは、名あつて情なき養母の權利を振まわして、藝妓なるものゝ肉を食ひ骨をしやぶり、なほ飽き足らぬ非道の人非人が多いのである。

會告

今般靜岡縣氣賀町に靜岡支部出張所を設け事務所を左の處に置く

靜岡縣引佐郡氣賀町 宮下新一氏方

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

會報

廓清會々員名簿

正會員之部

第七回

大阪市南區難波新地明治醫院內　六人部延平氏
同市北區上福島中一丁目十　大野勝馬氏
同市東區小橋元町一三〇　勝山三次氏
京都市四條大橋東入　荒木虎之助氏
同市室町通今出川上ル　原田助氏
同市室町下長者町上ル　佐伯理一郎氏
同市外田中村百万遍藤井方　田邊恒氏
近江國阪田郡南鄉里村　加納美惠氏
大阪市御幸町丸太町下ル宮永方　金子千代氏
同　平尾さだ氏
同　木村末子氏
同　富永はろ氏
同市川端柳出町橋上ル　林トク氏
同市烏丸下長者町上ル　平瀬やす氏
同市上出水烏丸西　堀内恭氏
同市今出川寺町西入ラルネデ方　木下なみ氏
同市鉄屋町四條下ル宇都宮方　河崎一生氏
近江國甲賀郡三雲村大字吉永　長谷夏子氏
京都市三條柳馬場靑年會館　井上源三郎氏
同府愛宕郡下鴨村四一　片山ナミ氏
同村森本町　片山英千氏
同市室町通出水上ル　岩内婦美氏
同市本町通十一丁目岡村方　大本岩七氏
同市楊梅新町東　江林嘉平氏
同市五條坂南側　宮川千代氏
同市烏丸出水角　和田きわ氏
同市下立賣日暮西入　高木菊造氏
同市竹屋町通東洞院西入ル□□方　中田辰之諧氏
同市同町角小杉とわ方　高田紀氏
同市兩替町御池下ル　中村強三氏
同市上京區寺町三條上ル　大槻トヨ氏
同市同區新北小路町同志社前　鹽瀬久榮氏
同府紀伊郡深草村字稲荷　谷田市次郎氏
同市佛具屋町花屋町岩田方　白島康範氏
同市三條大橋郵便局　外村毅雄氏
同市烏丸通松原下ル貯藏銀行　宇野和三郎氏

同市今出川通烏丸西入橋本方　志賀又市氏
同市吉田中道神樂坂　白井秀雄氏
同市東丸太町熊野道東入澤家　鈴木勇治氏
同市柳馬場三條上ル瓦斯會社　岡善吉氏
同府北桑田郡黑田村發電所　佐伯彌作氏
同府紀伊郡東九條村發電所　山根喜治氏
同市廣道通リ五條上ル　加藤徳松氏
同市丸太町油小路角　平井清太郎氏
同市河原町三條上ル　松浦久太郎氏
同市上原區新町通出水上ル　丸里伊三郎氏
同市新町通夷川上ル　尾島保太郎氏
同市上京區押小路衣棚角　藤井茂爵氏
同市三條室町西入　竹内保氏
同市室町通竹屋町上ル　中山きん氏
同市荒神口通河原町西へ入　牧野しげい氏
同市河原町三條上ル　尾崎うめ氏
同市蛸藥師通油屋町一二〇　永田齋氏
同市河原町御池下ル　伊藤だい氏
同市柳馬場三條瓦斯會社　石川金之助氏
同市六角通新町西三枝弘方　安田善之助氏
同市西洞院三條下ル木下方　小田秋二郎氏
同市六角新町西　三枝弘氏
同市佛光寺通柳馬場東入　小田原衛一郎氏
同市寺町二條下ル西側　吉田英吉氏
同市五條通東洞院西入大森方　杉野菊次郎氏
同市　松居新藏氏
同市富小路御池上ル　後藤玉樓氏
同府下葛野郡梅津村　中山喜代太氏
同市木屋町三條上ル　阪本恒吉氏
同市上京區新椹木町夷川角　小西仙助氏
同市寺町三條上ル　河村晴重氏
同市四條高倉東　市原太郎氏
同市猪熊通佛光寺瀬戸屋町　古田榮治郎氏
同市下京區古門前三吉町　大河原三郎氏
同市中町通竹屋町上ル片岡方　永友友三郎氏
同市柳馬場綾小路佐伯病院　中川もと氏
同市二條鉄屋町東　辻本庄一氏
同市同志社　秦孝次郎氏
同同社　田崎健作氏

同社西寮　小林美登利氏
同　岸田德造氏
同志社女學校　富森幽香氏
同　堀かつ子氏
同市押小路富小路角　宮川貞一郎氏
同市下京區安井神社北鳥居前　小澤行善氏
同市堺松原上ル尾仲方　山川作次郎氏
同市三條柳馬場美理軒　林壽々子氏
同市上京區夷川通富小路西入　三宅雄久眞氏
同市下京區六波羅三盛町四六　渡邊泰氏
同市室町通上立賣下ル　森本ます氏
同上京區上御靈馬場町　日野基榮氏
同市室町上立賣下ル　原田佐喜氏
同市神泉苑町姉小路下塚本方　岡澤元氏
同市蚕橋川蛸東　西岡誠之祐氏
同市三條通御幸町地方行政會　山田幸久氏
同千本通松原上ル　中野繁藏氏
同大和大路五條京都梁巣會　津村千松氏
同市三條小橋西入大澤商店　永山政夫氏
同市三條通白川橋東入一丁北　大堀寛吉氏
同市寺町通今出川上ル五丁目　進藤英彦氏
同府甲賀郡三雲村字三雲　井上富江氏
同市外田中村三木屋　新田孫三郎氏
同府師範學校第二寄宿舍　有本長太郎氏
同府下御池岩上西入　森三郎氏
同市外愛宕郡下加茂村　谷後徳次郎氏
同市京都醫學專門學校　藤田芳雄氏
同　玉川彡氏
同　竹下一三氏
同　吉田伊一郎氏
同　河崎津洲氏
同　畠山常三郎氏
同　大原純吉同
同　玉置繁三氏
同　小林氏
同　神田眞之助氏
同府愛宕郡下鴨村森本町　大賀松枝氏
同市今出川新町東入二〇八　西浦信氏
同市上長者町黑門東入　北岡泰次郎氏
同市御池高倉角　新井寛三氏
同市新町竹屋町上ル淺田方　中島金章氏
同市西洞院三條下ル　御池金造氏
同市西洞院蛸藥師下ル　北村末次郎氏
同市下長者町通淨福寺東入　永野勉氏
同新シ町通三條下ル谷垣方　慶松彦一氏
同市上京區二條通鉄屋町東入　牧よれ氏
同市一條通淨福寺西入中谷方　小塚伊之助氏
同市大學病院內　木村さと氏
同市岡崎町稲の川神樂坂上　北村春吉氏
同市祇園清井町一三　田中莊三氏

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

京都市下立賣千本西入清水出張所　鍋田錠三郎氏
同市錢屋町三條上ル岩田方　早川孝之助氏
同市三條柳馬場東入ミシン會社　片岡芳三郎氏
同市一條通新町東入　堀江初氏
同市八條通大宮西入八條町　野村清藏氏
同市室町通武者小路上ル　中島辰寛氏
同市下立賣堀川東入　高木富三郎氏
同府葛野郡梅津村　佐野みさ子氏
本鄉區東片町一五二　野田千代氏
神田區美土代町三ノ一五　古谷淺次郎氏
本鄉區弓町二ノ一三　武藤宗治氏
同區本鄉四ノ三六千代田館　千綿榮六氏
同區龍岡町三四姿秀館　淺井憲氏
麴町區飯田町五ノ八　赤岩春吉氏
芝區二本榎町二ノ一六　佐藤義雄氏
福島縣双葉郡長塚村　武内信武氏
東京府下大崎町上大崎渡邊方　中山俊次氏
新潟縣表騰五間層　河野茂市氏
本所區本鄉六ノ三四　山本萬五郎氏
同區眞砂町二五　馬場清治氏
芝區愛宕下町四ノ東一後藤方　馬渡俊三郎氏
小石川區春日町五〇竹内方　青木青峰氏
同區戸崎町九三鈴木差配所　都兼氏
本鄉區春木町三ノ五〇吉野館　羅聖淵氏
日本橋區本材木町二小谷田方　丸山正治氏
麴町區飯田町四ノ二三　海老沼邦三氏
本鄉區眞砂町一五大久保方　小川彦衛氏
同區婁戀町九小瀧新吉方　鴨志田白帆氏
同區本鄉四ノ四三稲勝館　庄司彌吉氏
茨城縣北相馬郡大野村字大柏　柳生精次郎氏
同郡相馬村大野村　柳生七郎氏
本鄉區金助町四七　酒井龜彌氏
神田淡路町一ノ一立花方　室橋信一郎氏
宮城縣桃生郡廣淵村新田方　尾形京三氏
本鄉區本鄉四ノ一七神倉方　加瀬峯二郎氏
千葉縣山武郡大和村　三須兵太郎氏
芝區琴平町四八蓬來軒　中島喜氏
米澤市門東町上ノ町米澤教會　五味市重氏
本鄉區龍岡町本鄉區役所　木村辰平氏
神田區五軒町一九榮山方　吉根直造氏
淺草區松葉町四九野上方　南貞五郎氏
同區新福富町二番地　大和文吉氏
本鄉區元町一ノ二六勝川方　遠藤友次氏
小石川區掃除町二三　三木常太郎氏
本鄉區弓町二ノ三桑野館　池上芳男氏
日本橋區濱町二ノ一佐藤病院　丸山岩三郎氏
四谷區大番町三四　千種成記氏
牛込區東榎町二〇　鴨田六郎氏
本鄉區寒町四柴山留次郎方　中村修廣氏
宮城縣柴田郡村田町　山田恭作氏

神田區表神保町一〇共同組　三森シケ氏
赤坂區傳馬町二ノ一五　多賀合藏氏
本鄉區弓町一ノ二三川本方　伊藤書吾氏
神田區南甲賀町一八明治館　阿多不二氏
本鄉區本鄉四ノ四五森野方　内沼支有平氏
同區湯町四、藤島館　虻川丹治氏
神田區美土代町一ノ一五加藤方　日高芳丸氏
本鄉區弓町一ノ二五瀬戸方　白井五市郎氏
芝區愛宕町二ノ一島田平三郎方　蒲生留吉氏
本鄉區春木町二ノ二七永井方　中山文鐵氏
同町二ノ三九大盟館　青木信吾氏
同　新井仙重郎氏
日本橋區本石町四ノ二九桑井方　河野尹石氏
奈良縣吉野郡十津川村　風川公士丸氏
本鄉區本鄉二ノ二七石川方　松下美登里氏
下谷區練塀町一四　福田甚二郎氏
日本橋區小傳馬上町七　中村鎭吉氏
神田區蝋燭町松風軒　宮内俊輔氏
同　永富治郎氏
本鄉區湯島新花町八六矢澤方　木下茂氏
下谷區入谷町一〇〇橋田方　柳田道雄氏
芝區櫻田久保町五　池田益吉氏
下谷區茅町二ノ二五　高木彦右衛門氏
本鄉區眞砂町二〇　高柳賢三氏
小石川區戸崎町一七　磯部榮氏
淺草區小島町七八　北野久吉氏
麻布區本村二四　内海啓藏氏
府下東大久保町五〇三　長尾景紅氏
下谷區谷中清水町一二　吉田美濃助氏
神田區一橋通二〇　我妻傳八氏
秋田縣沼館町　藤田泰治氏
神田區三河町一ノ一　松村育太郎氏
牛込區市ヶ谷加賀町三ノ三一　高松清太郎氏
本鄉區湯島四ノ二〇泉山方　高畑幹氏
同區菊坂町八四菊富士支店　小川浩氏
下谷區谷中初音町二ノ五青雲館　花光健介氏
赤坂區青山南町五ノ一五　上代知新氏
府下瀧ノ川女子聖學院　鈴木愛氏
同　白尾不朗子氏
同　佐藤さき氏
下澁谷町四一四　小原竹世氏
芝區三田綱町一平田方　武藤咲氏
府下大井町二三六飯田方　阿波禰太郎氏
神田區小川町四一岡本方　矢野武氏
府下淀橋字角筈七五〇　龜井德太郎氏
神田區三崎町三ノ一柳澤方　鈴木俊三氏
下谷區下根岸町三一　高木廉氏
牛込區市ヶ谷本村町篠田邸内　村井勇吉氏
小石川區西丸町五七　菅原兵作氏
札幌區北二條西二丁目仁平方　河田讓吉氏

府下大久保百人町三二六辻井方　井上操氏
府下葛飾郡吾嬬村字龜戸　小林敏氏
本鄉區臺町一四小林方　高田氏
同區本鄉四ノ二六増田方　石垣小太郎氏
同區臺町四一靜陽館　武田幸治氏
京橋區月島小學校　中村善藏氏
本鄉區龍岡町三六長龍館　岡田純太郎氏
同區丸山新町一六　大野豐吉氏
麴町區内幸町一ノ四石山方　佐藤安氏
本鄉區追分町一九　三橋孝一氏
下澁谷四一四草鄉方　田中文氏
下谷區竹町一二ノ一九河部方　福田照治氏
府下淀橋町柏木三五二菅野方　中村辰次郎氏
本鄉區動坂町三六一　跡部巳之男氏
大和國御所町　奈良葛子氏
神田區猿樂町二根本方　市川岩氏
本鄉區東竹町三〇　加藤春子氏
小石川區大塚仲町五六　保科錦氏
本鄉區駒込千駄木町五〇　満岡美龜氏
同區龍岡町三四清明館　佐藤治也氏
神田區表猿樂町一九大關和子方　山崎ふみ氏
同　安田たつ氏
同　中塚靜代氏
同　菊山園子氏
同　天満幸氏
同　岡田柳氏
同　龍門松代氏
本鄉區湯島四ノ二〇泉山方　太田政治氏
麴町區飯田町三ノ貳七　田村兼介氏
小石川區原町一〇志茂方　太宰一三氏
府下北豊島郡染井八七五　大上植太郎氏
下谷區谷中眞島町一眞島館　伊藤高藏氏
宇治山田市櫻木町くらがりや方　越山長三郎氏
播洲姫路市北條口西ノ町　植田寅之助氏
岩手縣紫波郡煙山村　高橋次郎氏
麴町區富士見町河本方　鈴木庫治氏
日本橋區馬喰町四　山岸德次郎氏
同　山岸三之助氏
本鄉區菊坂町七五　名村倫治氏
仙臺市米ヶ袋上町一二　早坂哲郎氏
陸前國石ノ巻町字本町三四　堀文治氏
四谷區大番町　春田とき子氏
栃木縣日光町電氣製銅所　細川慶次氏
熊本縣鹿本郡吉松村字今藤　井上民彦氏
廣島市鐵砲町内富方　吉谷興市氏
神田區表神保町一〇　秋元尚壽氏
神田區南神保町二　丸田廣畝氏
府下巣鴨一六二三　長谷川裕氏
大連市西廣場救世軍會館　根岸連治氏
下關市田中町上ノ山　安倍安藏氏

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

夏の仕事

畏れ多くも先帝陛下は、夏の烈しい暑さにも決して御避暑など遊ばされしことなく、常に政務を樹はせられた事は、我等國民の等しく恐懼に堪えない處である、吾吾は敢て諸君の避暑に就て云爲するものではないが、假令何處にありとするも、空しく遊び暮す事のないやうにしたいものだと思ふ。某々會員の如きは旅行をすれば旅行先で、歸省をすれば其歸省地で會員を募集し主義を皷吹するのを怠らないである。吾々は斯うい風に行住座臥、自分は廓清會の會員であるといふ事を忘れないでゐたいものだと思ふ。僅に一冊の雜誌であつても、會員各位がそれぐ、、、、じゆんぐりに遊んでゐる知人達に送つて讀ませる事とすれば、假しや會員に導くといふ直接の收穫がなくともつまりは種を蒔くやうなもので、早晩それが芽萌えて豐な秋の收穫を祝福する時が必ず來るのである。夏の仕事として此簡單な運動法の實行を特に諸君に望むのである。

廓清會綱要

(一) **本會の目的** は男女間に貞潔の德操を進め、社會の風紀を廓清し、家庭の和樂人生の幸福を增進するにあり。而して公娼制度は此目的に反する惡制度なるが故に之が全廢を期す。

(二) **入會の心得** 右の趣意を贊成するものは男女を問はず何人も入會することを得。入會希望者は住所、氏名、職業、年齡を記して本部又は支部に申込むべし。

(贊助會員は口數を明記す)

(三) **會員の特權** 會員には本會機關雜誌「廓清」を毎號寄贈す。

(四) **會員の種類** 會員に二種あり。

一、**贊助會員** 本會の維持費として毎月一口(二十五錢)以上を出資する者。

二、**正會員** 毎月金五錢を納むる者。

(五) **會費の納入** 會費は郵便爲替、又は振替貯金東京一九五三三番益富政助に拂込まれたし。

(注意) 前項振替口座一九五三三番は益富政助氏名義にして廓清會所有にあらず、依て御送金の節は、必ず益富政助宛に御拂込相成たし。但し裏面に「廓清會費」と明記ありたし。

廓清會本部役員

顧問	伯爵 大隈重信
會長	島田三郎
副會長	矢島楫子
同	安部磯雄
會計	山本邦之助
常務理事	益富政助
理事	内ケ崎作三郎
同	鵜崎庚午郎
同	矢吹幸太郎
同	山田彌十郎
同	小松武治
同	小崎千代子
同	島貫兵太夫

大正元年八月十五日納本　一部定價金六錢
大正元年八月十五日發行(毎月一回十五日發行)

東京府下大久保百人町百卅八番地
編輯兼發行人　益富政助

東京市小石川區久堅町一〇八
印刷人　水谷景長

東京市小石川區久堅町一〇八
印刷所　博文館印刷所

神奈川縣川崎町砂子百三番地
發行所　廓清發行所

（明治四十四年八月一日第三種郵便物認可）（大正元年八月十五日納本）每月一回十五日發行

THE NANKOIN HOSPITAL

CHIGASAKI, SAGAMI, (Near Ōiso)

Under the Management of

Dr. K. TAKATA

Within a few minutes from the Chigasaki R. W. Station.

HEALTHIEST SITUATION FACING THE SAGAMI BAY FINE SCENERY

Telephone : CHIGASAKI No. 2.

▲入院は診斷後隨時需に應ず

松田、林、峰間三副長は目下當院に在勤

電本 八八八番（病院用）八九八番（自宅用）

東洋內科醫院

東京市神田區駿河臺鈴木町二番地、御茶水橋附近

院長醫學士 高田畊安

神奈川縣高座郡茅ヶ崎町柏海濱、停車場より半里

電チガサキ二番

南湖院

河野、高橋兩副長は目下當院に在勤

▲院長渡歐中の處今般歸朝す